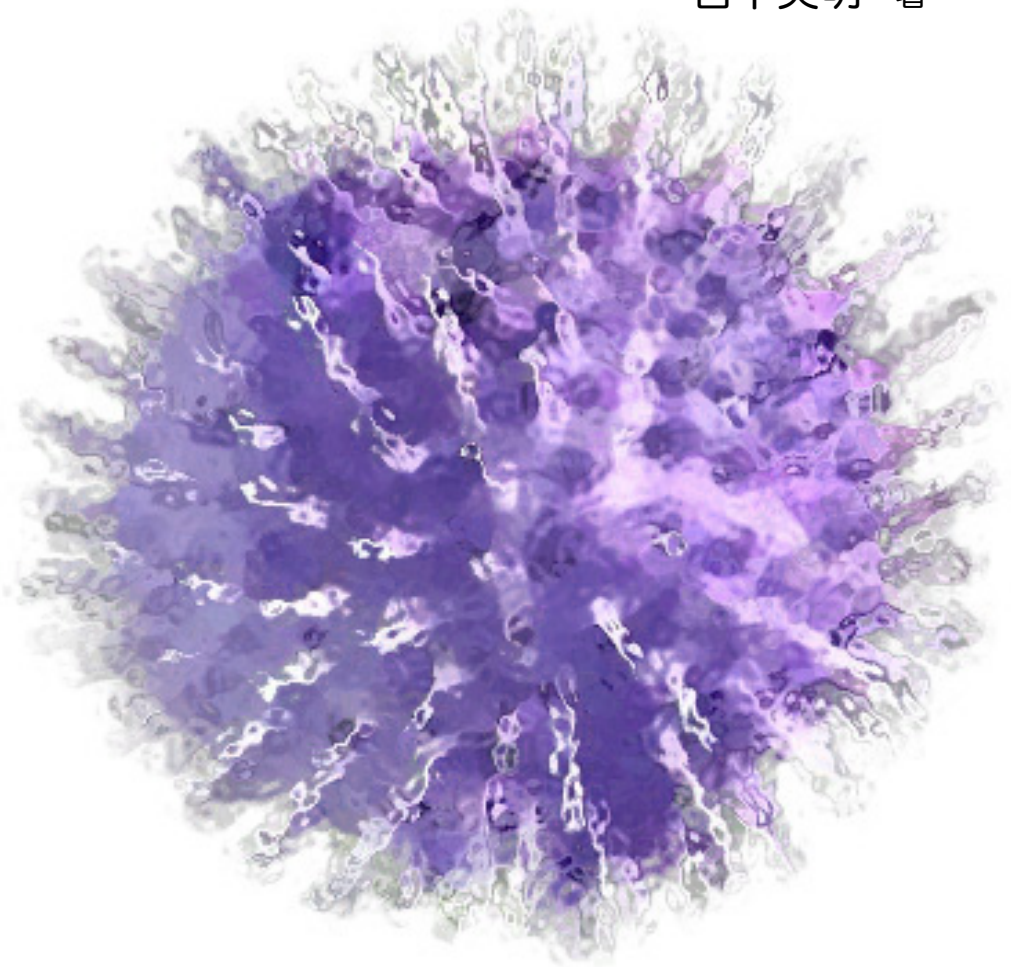
「新型コロナ」: 洗脳・全体主義

——「馬鹿な戦争をやったもんだ」が繰り返されるしくみ——

洗脳

Ver. 2020-07-16

宮下英明　著



文中の青色文字列は，ウェブページへのリンクであることを示しています。

「新型コロナ」：洗脳・全体主義

洗脳

本書について

本書は，

http://m-ac.jp/

のサイトで書き下ろしている

『「新型コロナ」：洗脳・全体主義

——「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」が繰り返されるしくみ』

の「III. 洗脳」の部を PDF 文書にしたものです。

目次

はじめに …… 1

1. 洗脳・全体主義 …… 3
1.0 要旨 …… 4
1.1 洗脳「新型コロナは怖い」 …… 5
1.1.0 要旨 …… 6
1.1.1 感染症を忌避する文化 …… 8
1.1.2 感染者ヘイト …… 12
1.2 洗脳「新しい生活様式」 …… 15
1.2.1 「新しい生活様式」 …… 16
1.2.2 生活・生業の崩壊に対する感覚麻痺 …… 17
1.2.3 財政崩壊に対する感覚麻痺 …… 19
1.3 全体主義 …… 20
1.3.1 「非国民」意識 …… 21
1.3.2 ＜厭な国民性＞の露呈 …… 22

2. 騙す者 …… 25
2.0 要旨 …… 26
2.1「専門家」 …… 28
2.1.1 ヒロイズム …… 29
2.1.2 「対応しないとひどいことになる」 …… 31
2.1.3 政治・メディアとの共犯関係 …… 34
2.2 政府 …… 35
2.2.0 要旨 …… 36
2.2.1 「専門家 / 有識者会議」悪用の報い …… 37
2.3 NHK/ イデオロギー …… 38
2.3.0 要旨 …… 39
2.4 利権 …… 41
2.4.0 要旨 …… 42

3. 騙される者 …… 45
3.1 無知 …… 47
3.1.1 無知とは騙されること …… 48
3.1.2 無知の思考様式 …… 51
3.1.3 数学教育 / 学校教育の無力 …… 53
3.2 前のめり …… 57
3.2.1 前のめり型自治体首長 …… 58
3.3 恐怖症 …… 60
3.3.1 「新型コロナ恐怖症」 …… 61
3.3.2 " 感染者 " を掘り出す …… 63
3.3.3 新型コロナ恐怖症全体主義 …… 64

4. 妄言 …… 67
4.1 コロナ感染 …… 68
4.1.1 「感染者数」 …… 69
4.1.2 「死亡数」 …… 73
4.1.3 「抗体検査」 …… 75
4.1.4 「感染経路・クラスター」 …… 79
4.1.6 「対策ゼロなら 40 万人死亡」 …… 82
4.2 コロナ医療 …… 86
4.2.1 「救える命を救うために」 …… 87
4.2.2 「医療崩壊」 …… 88
4.2.3 「薬」 …… 91
4.2.4 「ワクチン」 …… 94
4.3 コロナ生活 …… 96
4.3.1 「大切な人の命を守るために」 …… 97
4.3.2 「ステイホーム」 …… 99
4.3.3 「ウィズコロナ」 …… 100

5. 妄動 …… 103
5.0 要旨 …… 104

5.1 「消毒」 …… 106
5.1.1 「消毒」 …… 107
5.1.2 「雑巾拭・液剤散布」 …… 109
5.1.3 「手洗い」 …… 111
5.2 「うつされない・うつさない」 …… 114
5.2.1 「マスク」 …… 115
5.2.2 「飛沫シールド」 …… 118
5.2.3 「ソーシャルディスタンス」 …… 120
5.2.4 「換気」 …… 122
5.3 学校の場合 …… 124
5.3.0 要旨 …… 125
5.3.1 全国一律休校 …… 126
5.3.2 「授業数」の扱い――緊急事態法対応 …… 129
5.3.3 短縮・分散・在宅授業 …… 131
5.3.4 「消毒」 …… 132
5.3.5 窓を開けてエアコンをかける …… 134

おわりに …… 137

本文イラスト，ページレイアウト，表紙デザイン：著者

はじめに

1.　洗脳・全体主義

1.0　要旨
1.1　洗脳「新型コロナは怖い」
1.2　洗脳「新しい生活様式」
1.3　全体主義

1.0　要旨

作成 : 2020-07-02

戦争は，洗脳と全体主義がセットである。

戦争は，敵を立て，敵に対抗することである。
＜敵に対抗する＞は，虚構である。
虚構を事実と信じ込ませることは，洗脳である。
こうして，＜敵に対抗する＞が組織的に成るためには，洗脳が必要条件になる。

＜敵に対抗する＞は，一致団結で取り組むものである。
一方，個は多様であるから，何事も一致団結は成らない。
そこで，＜敵に対抗する＞が組織的に成るためには，全体主義が必要条件になる。

「新型コロナ自粛」は，戦争である。
これの息苦しさは戦争の息苦しさであって，それは洗脳と全体主義の息苦しさである。

1.1　洗脳「新型コロナは怖い」

1.1.0　要旨
1.1.1　感染症を忌避する文化
1.1.2　感染者ヘイト

1.1.0　要旨

作成 : 2020-06-10

感染者は，摘発され隔離される。
そしてヘイトされる。

インフルエンザは，この場合ではない。
新型コロナは，この場合である。
なぜか。

新型コロナでは，つぎのことが起こった：

「専門家」が新型コロナの恐怖を訴える
メディアがこれを信じて，行政の対応の鈍感さをなじる
国民がこれを信じて，行政の対応の鈍感さをなじる
自治体の長が，国の対応の鈍感さをなじる
国がこれに負けて，「全国緊急事態」を発令する

「緊急事態」は，自治体につぎのことを許す：

感染者を摘発
感染クラスターになりそうなところを摘発 (世間に晒す)
感染を広めることになりそうな行動を摘発 (世間に晒す)

メディアは，これの広報メディアを務める。

自治体の首長は，感染者の多いことを自分の汚名と考えるので，あるいは感染封じ込めの戦果をあげたいので，自粛を徹底させようとする。
自粛させるために，「新型コロナはひじょうに怖いものだ」を訴える。

秀逸は，東京都の赤色ライトアップである。
赤色の都庁は，さながら伏魔殿で，威圧感がハンパでない。
赤色のレインボーブリッジも，なかなかに不気味である。
それは，恐怖をバックグラウンドにした赤色は「血」をイメージさせるからである。
ひとの恐怖心ないし猟奇趣味を巧みに刺激しているわけだ。

YAHOO! ニュース , 2020-06-03 から引用

こうして，国民は「新型コロナはひじょうに怖いものだ」にすっかり洗脳される。

1.1.1 感染症を忌避する文化

作成 : 2020-03-14　更新 : 2020-06-14

人間――そもそも生物というもの――は，ウィルスと共存して進化してきた。
生物にとってウィルスは，《それに慣れる》《それを体の要素にする》というものである。

ひとは，ウィルスに絶えずさらされている。
ウィルスを忌避しても始まらない。
要点は，
　＜ウィルスにさらされている＞と＜発症する＞は，別
　＜発症する＞と＜重症化ないし死亡する＞は，別
ということである。
発症は，色々な条件が重なって発症するというものである。
重症化・死亡は，色々な条件が重なって重症化・死亡するというものである。
発症は確率の問題であり，重症化・死亡は確率の問題である。

註：「感染」をいうことは，無意味である。
　感染は０か１ではないからである。
　＜ウィルスにさらされている＞と＜発症＞の間に＜感染＞というフェーズがあるわけではない。

例えばインフルエンザだと，発症の確率は高い。
2018 年度は，推定 1 千万人以上が発症で病院にかかっている。

一方，死亡の確率は，同年度で，
　国民 10 万人あたり　2.7 人
である。
これは多いのか少ないのか？
これだけでは考え様が無いので，他の馴染みの死因と比べることになる：

癌	10 万人あたり	311.3 人
心疾患	〃	167.6 人
肺炎	〃	76.2 人
交通事故	〃	3.7 人
自殺	〃	16.1 人

ひとは「桁数」の考えが弱いので，老婆心から「10 万人あたり○人」の割合を＜長さ＞で視覚化しておこう：

　10 万 mm に対する ○ mm
　104+1 × 10-3 m に対する ○ mm
　100 m に対する ○ mm

円周 100 メートルのルーレットで，幅○ mm の幅のところに賭けて当たる確率というわけだ。
当てる自信のある人は，ウィルスから必死に逃げる資格がある。

新型コロナは，＜罹(かか)らない＞という選択肢は無い。
考え方は，インフルエンザとまったく同じである。

　新型コロナは，発生当初「空気感染」しないとされた。
　実際，２月３日横浜寄港のクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス

号での感染症集団発生への対応は，この認識で行われた。
しかし新型コロナウィルスは，「空気感染」する。
インフルエンザと同じである。
ただし，この馴染みのインフルエンザでも，ウィスルの「空気」存在論は不明のままである。

新型コロナは，恐がってもしようがないものである。
罹ったら罹ったである。
そして罹ったときの作法は，《体の治癒能力を頼み，その働きをじゃましないようにしずかに寝ている》である。
そして治れば，免疫が出来ている。

しかし現代は，感染症を忌避する時代である。
感染症に罹ったら病院に行かねばと思う時代である。

この文化は，医療・衛生用品業界の「謀略」の賜である。
ひとは，彼らの宣伝をすっかり信じるようになった。
＜きれい＞を正しいことにし，＜きたない＞を忌避する。
そしてこれの延長として，感染症に荒唐無稽な反応をすることになる。

漫画喫茶の新型コロナ対策が，NHK ニュースで紹介される。
どんなことをやっているかというと，

布で本の表紙を拭き (撫で)，中を一回開いて撫でる

ウィスルの存在論が滅茶苦茶なのであるが，ほぼすべての国民がこの手の存在論に嵌まっている。

ただしこの＜嵌まる＞は，＜信じている＞と＜何か格好をつくらねばならない＞の半々である。
後者は，互いに騙し合っているわけである。
「裸の王様」の寓話の中の民衆というわけである。

現代の「パンデミック」は，この文化を背景に措(お)いて理解されるものになる。
政府の感染拡大対策は，ウィルスに対するひとの荒唐無稽な存在論，感染拡大に対するひとの荒唐無稽な反応を，土台にするものになるからである。

1.1.2 感染者ヘイト

作成 : 2020-06-10

ひとは，「新型コロナはひじょうに怖いものだ」に洗脳される。
このとき感染者が，ひとが怖れるものになる。
感染者は，ウィルスが巣くうところだからである。

ひとは，怖く思っているものが近くに寄ってくると，パニックになる。
そして，「いまより近くに寄ると死ぬぞ」を意味するアクションをする。
たとえば，ゴキブリ嫌いの者は，ゴキブリがもし自分に寄ってきたら，ヒステリックにスリッパで床をめくらめっぽう叩くようなアクションになるだろう。
もしゾンビに囲まれたら，ヒステリックにバットを振り回すようなアクションになるだろう。

昔は，ひとは癩者に対してこのようなアクションをとることになった。
その当時の人は，「癩はひじょうに怖いものだ」に洗脳されていたからである。
癩者をひどく怖れている者は，自分の近くに癩者が現れたら，必死に癩者を撃退しようとする。
例えば，石を投げる。

これは，「差別」とか「いじめ」とかではない。
自分を必死に守ろうとする防衛反応である。
実際，スリッパでゴキブリを必死に撃退しようとしている者は，ゴキブリを差別する者でもいじめる者でもない。
バットでゾンビを必死に撃退しようとしている者は，ゾンビを差別する者でもいじめる者でもない。

「新型コロナはひじょうに怖いものだ」に洗脳されている者は，感染者に対してこのように振る舞う者になる。
これが，感染者ヘイトである。

感染者ヘイトを「感染者差別」と呼び，ヘイトをたしなめるふうのことを言う者は，ヘイトを馬鹿者のすることと定めている。
「自分も感染するかも知れないことを思えば，差別なんかできないはずだ」というのが，この者の理屈である。
馬鹿者は，この者の方である。
ゾンビが自分に迫ってきたら，ひとはバットを振り回す。
ゾンビに感染しないためにこれをするのであって，「自分もゾンビになるかも知れないのだから，ゾンビを受け入れよう」とはならないのである。

つまり，「新型コロナはひじょうに怖いものだ」を言うことと「感染者を差別するな」を言うことは，矛盾しているのである。
「差別反対」は，この矛盾がわからない馬鹿者のことばである。

どこで間違っているのか。
「新型コロナを遠ざけよ」が，間違いなのである。
ソルーションは，「新型コロナと共生せよ」である。
つぎのように言えばよいのである：

「いつものインフルエンザと同様にしていればよい」

「新型コロナはひじょうに怖いものだ」に洗脳されれている者は，こう言われたら

「インフルエンザはたいした病気ではないが，
新型コロナはひどく怖い病気だ」

と返すことになる。
このときは，この者にインフルエンザと新型コロナの比較をきちんと示してやるのである。
インフルエンザの罹病者（病院にかかった者）数・死亡者数を示し，そして重症化の内容がインフルエンザと新型コロナで同じであることを示してやる。

→『「新型コロナ」とは』，「インフルエンザの場合」

なぜこれがされないか。
いま社会をリードしているのが，これがされると不都合な者たちだからである。
その不都合を大きく括って言えば，「引っ込みがつかない」と「利権」である。
前者にあたるのが，「専門家」，政治家，メディア。
後者にあたるのが，医療・衛生産業とこれに連なる産業。

政府は，「戦争」を終わらせたがっている。
しかし「いつものインフルエンザと同様にしていればよかった」「もうナンセンスはやめよう」をこの段階になって言えるのは，よほどの政治家魂・矜恃である。
これはいまの政府には無縁のものである。

1.2　洗脳「新しい生活様式」

1.2.1　「新しい生活様式」
1.2.2　生活・生業の崩壊に対する感覚麻痺
1.2.3　財政崩壊に対する感覚麻痺

1.2.1 「新しい生活様式」

作成 : 2020-07-04

2020-05-04，厚労省「新型コロナウイルス感染症専門家会議」が，「新しい生活様式」の「提言」を発表する。
これは，政府が「新しい生活様式」を示したことになる。

政府が示したものなので，己を＜コンプライアンスに即く者＞として公にしているものは，これに従わねばならない。
「提言」は，「命令」になるのである。

「新しい生活様式」は，「新型コロナは怖い」の生活様式である。
よって，「新型コロナは怖い」の洗脳は，そのまま「新しい生活様式」の洗脳になる。
「新型コロナは怖い」一色の日本は，「新しい生活様式」一色の日本になる。

1.2.2　生活・生業の崩壊に対する感覚麻痺

作成 : 2020-07-04

「新しい生活様式」は，「新型コロナは怖い」の生活様式である。
よって，「新型コロナは怖い」の洗脳は，そのまま「新しい生活様式」の洗脳になる。

洗脳は，思考停止である。
「新しい生活様式」は生活・生業の崩壊を意味するが，「新しい生活様式でやっていくのみ」に洗脳された頭は，この「崩壊」を考えることシャットアウトする。
「シャットアウト」――これが思考停止のダイナミクスである。

生物の生活は，つねにかつかつである。
なぜなら，余裕（ニッチ）ができたときは，個の生活がかつかつになるまで（ニッチが埋まるまで）繁殖するからである。

企業は，余裕で活動しているのではない。
売上が数十％落ち込む状態は，本来なら倒産である。
「新しい生活様式」による倒産ドミノが現れていないのは，一つは金のマジックによる。「金造り」財政と「金回し」で倒産危機の企業を何とか支えているわけだ。
そして倒産ドミノが現れていないのは，心配せずともこれから現れるということである。

外食産業や観光業は，客足を戻すために「安全」を PR をしている。

やれることはこれだけというわけだが，逆効果でしかない。
「安全」の装備・パフォーマンスは，鬱陶しいだけになる。
――例：マスクをした「夜の街」に，ひとは出向かない。

「新しい生活様式」は，不可能な生活様式である。
これが特需になっている産業以外は，すべて倒れることになる。
＜倒れる＞は＜共倒れ＞になるから，「すべて倒れる」なのである。
しかし，「新しい生活様式」に洗脳された頭は，この道理を考えることをシャットアウトする (思考停止)。

1.2.3　財政崩壊に対する感覚麻痺

作成 : 2020-07-04

「新しい生活様式」体制は，生活困窮を財政出動で支える体制である。
ひとは財政出動を「税金の再配分」のように思っているが，これは「金造り」である。

→『財政出動』

ひとは財政出動に慣れる。
財政出動を当たり前にするようになる。
「兆」単位の金額にすっかり感覚麻痺し，千兆円を超えるようになった債務残高 (「財政崩壊」) のことを聞いても，何も感じなくなる。

1.3　全体主義

1.3.1　「非国民」意識
1.3.2　＜厭な国民性＞の露呈

1.3.1 「非国民」意識

作成 : 2020-06-10

「新型コロナはひじょうに怖いものだ」に洗脳された国民は，さらに＜正義＞をつくり出す。
即ち，つぎを正義にするようになる：

「新型コロナはひじょうに怖いものだ」の意識を持ち，
「新型コロナはひじょうに怖いものだ」に気を配って行動する

そして，このようでない人間を軽蔑・嫌悪するようになる。

メディアは，この正義感に対しても，助長・煽動する役を務める。
こうして，国は「新型コロナはひじょうに怖いものだ」全体主義になる。
上の正義を行わない者は，「非国民」である。

真夏日に，マスクをつけて外出している者。
この者が不快を我慢してマスクをつけている意味は，二重である。
一つは，「新型コロナはひじょうに怖いものだ」。
もう一つは，「マスクをつけないと非国民にされる」。

1.3.2　＜厭な国民性＞の露呈

作成 : 2020-06-10

日本人の「非国民」の意識の持ち方は，「国民性」という見方ができる。
日本人は，もともとこんなふうなのである。

日本人は，＜世間体を気にする＞を生き方にしている。
＜世間体を気にする＞は，つぎのようなバリエーションを込めたものである：

＜ひとから何か言われることに，つねにおどおどしている＞
＜ひとから何か言われないよう，周りに同調する＞
＜ひとから何か言われないよう，予め身辺を繕っておく＞

これは，他の国でもそうだというものではない。
日本人のこの国民性は，特殊――異常――なのである。

自治体が管理している池は，公園でも柵が巡らされている。
「危険」が標識されている。
これは，子どもが池に入って事故が起きると責任追及の声が上がるので，それを嫌がってである。
しかし，これを作業し出すと，一つの達成感がもたれてくる。
そして，できることを色々さがし出し，工夫を凝らすことに，やり甲斐を感じるようになっていく。
こうして，＜ひとから何か言われないよう，予め身辺を繕っておく＞は，つぎに転じる：

＜自分はこんなにもきちんとやってますよを，自慢する＞

万事こんな調子である。
「新型コロナ」ではナンセンスな「工夫」のオンパレードを見させられているわけだが，いま述べたダイナミクスからそうなってしまうのである。

2.　騙す者

2.0　要旨
2.1　「専門家」
2.2　政府
2.3　NHK/ イデオロギー
2.4　利権

2.0　要旨

作成 : 2020-07-04

洗脳は，結果的に騙しになる。
ウソが教えられるからである。

＜ウソを教える＞は，＜ホントと信じてウソを教える＞と＜ウソとわかっていて教える＞が区別される。
洗脳は，一般に，＜ホントと信じてウソを教える＞から始まる。
例えば「対策ゼロなら 40 万人死亡」は，この場合になる。

→ 4.1.7「対策ゼロなら 40 万人死亡」

ホントと信じるから始まった＜ウソを教える＞は，段々とウソがわかってくる。
しかし，ウソがわかってきたときは，既に引っ込みがつかない身になっている。
そこで，ウソがバレないように，ことばをつくろう。
ここからは，＜ウソとわかっていて教える＞である。

また，＜ウソを教える＞は，直接的と関接的が区別される。
後者は，＜ウソがホントに見えてしまうことをする＞である。

例えば，政府の「全国自粛」宣言と破格の財政出動。
これは，「対策ゼロなら 40 万人死亡」を受ける格好になった。
これにより，「対策ゼロなら 40 万人死亡」がホントのことになる。

政府は，騙される者になり，つぎに騙す者になった。

洗脳された者は，ウソを拡散する者になる。
そしてこの者は，ウソを重ねる者になる。
《ひとが信じてくれるなら，多少の演出は正当化される》が，この者の考えである。
NHK がこれの筆頭格である。
NHK は,「新型コロナは怖い」「対策しないとたいへんなことになる」「新しい生活様式」を，あの手この手で発信する。

最後に，ひとが洗脳されているのをいいことにする者がいる。
利権である。
筆頭格は医療・衛生産業，そして医師会である。

「ひとが洗脳されているのをいいことにする」は，構造的にそうなるというものである。
よいわるいの話ではない。
「新型コロナ」特需に浴している個人・組織は，「利権」になる。

2.1 「専門家」

2.1.1　ヒロイズム
2.1.2 「対応しないとひどいことになる」
2.1.3　政治・メディアとの共犯関係

2.1.1　ヒロイズム

作成 : 2020-06-29

災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。
死ぬる時節には死ぬがよく候。
是はこれ災難をのがるる妙法にて候。

ヒロイズムは，これの正反対を行く。
《自分は，災いを退けて民を救う者――救世主――になる》

ヒロイズムは，つぎのストーリーになる。
主人公には，障害がある。
災いの兆しを理解しない / しようとしない者たちである。
主人公は，彼らを説き伏せ，災いとの戦いを開始させる。
戦争は勝利し，主人公はヒーローになる。

こんなふうになるのは，映画である。
現実は，映画ではない。
ヒロイズムの戦争は，災難をはるかに超える災難になる。
ゆえに，「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候‥‥」となるわけである。

しかし,「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候‥‥」は, 達観である。
「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候‥‥」を経験した者がわかることである。

経験したことのない者は，「解決」を考える。
「解決」は「戦争」である。
そして「戦争」を己に負わせるもの，それがヒロイズムである。

主人公は，災いの兆しを理解しない / しようとしない者たちを説き伏せ，災いとの戦いを開始させる。
しかし「災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候‥‥」であるから，この「説き伏せる」は，それが何であれ結果的には「騙す」である。
しかもこの主人公は，「目的は手段を合理化する」の考え方をする者である。
「説き伏せる」は，意図的な「騙す」になる。
無いことを有ると言う，百倍にして物を言う――をやっていくことになる。

2.1.2 「対応しないとひどいことになる」

作成 : 2020-07-02

NHK News Web, 2020-07-02

東京都 新たに 107 人の感染確認

東京都は 2 日、都内で新たに 107 人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたと発表しました。都内で一日の感染の確認が 100 人以上となるのは、大型連休中のことし 5 月 2 日以来 2 か月ぶりで、5 月 25 日に緊急事態宣言が解除されて以降最も多くなりました。

‥‥

107 人のうち 20 代と 30 代はあわせて 71 人で、‥‥
62 人はこれまでに感染が確認された人の濃厚接触者‥‥

‥‥

専門家「何らかの対応をとる時期が来ている」

都内で新たに 107 人の感染が確認されたことについて、新型コロナウイルスの治療の中核を担う国立国際医療研究センターの忽那賢志医師は、「現在、感染しているのは若い世代が中心で軽症の患者や無症状の人が多いため、入院する患者は少なく医療体制がひっ迫する状況では無い。ただ、このペースで感染者が増えていくと第 1 波の流行の時のような状況に戻ってしまいかねない。さらに若い人が中心なので無症状のまま出歩いてしまい、高齢者や持病のある人に感染を広げる心配がある」と指摘しました。
そのうえで、忽那医師は「このまま何もしないと、再び緊急事態宣言を出さないといけないという事態になりかねないため、

> ほかの地域への移動やクラスターが出ている夜の街などに対して何らかの対応をとる時期が来ているように感じる。社会活動の緩和についてはいま一度熟慮すべきだ」と話していました。

「新たに確認された感染者」は，「新たな感染者」ではない。
「新たに確認された感染者数」の増加は，「新たな感染者」の増加ではない。

実際，この度の「新たに確認された感染者」の増加は，「夜の街」捜査で感染者を掘り起こした結果である。
しかしひとは，「新たに確認された感染者数」の増加を，「新たな感染者」の増加，即ち「感染拡大」と受け取る。
NHK ニュースも，「感染拡大」と受け取られるように伝える。
通行人に「100 人を超えた」を伝えて「怖い」を言わせ，これを報道するわけである。

> NHK には，世論誘導に対する一種独特な使命感が見受けられる。
> それはただの無邪気 / 幼稚のようにも見えるが，イデオロギー的な偏執が感じ取れる。

そもそも新型コロナは，感染者数は問題にならない。
新型コロナがインフルエンザ並みなら，年間の国内感染者数は千万人級になるからである。

→『「新型コロナ」とは』「インフルエンザの罹患状況」

ちなみに「世界の新型コロナ感染者が 1 千万人を超えた」という報道があったところだが，本当はこんなものではない。

インフルエンザは，すべての月で死亡者が出ている。

→『「新型コロナ」とは』「インフルエンザの月別死亡数」

したがって，感染拡大収束後もずっと罹患者が出ているわけである。
これらの罹患者は，「感染拡大」で新たに感染した者ではない。
既にウィルスに感染していて，そのウィルスが活発化した者である。

> 「陽性・陰性」の意味は，「感染している・していない」ではない。
> 「ウィルスが見つかった・見つからなかった」である。
> そして，「ウィルスが見つからなかった」は「ウィルスはいない」ではない。
> 感染していても「陰性」は有りなのである。

「専門家」は，いつも「対応せねば酷いことになる」を言う。

→ 4.1.7「対策ゼロなら 40 万人死亡」

しかし，酷いことになるのは，「専門家」が言ってくるような対応をしたときである。
「専門家」にこのような物言いをさせることの無益・有害を，NHK には求むべくもないが，ひとはそろそろ悟り始めてきてもよい頃である。

> 災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。
> 死ぬる時節には死ぬがよく候。
> 是はこれ災難をのがるる妙法にて候。

2.1.3　政治・メディアとの共犯関係

作成 : 2020-04-29

「専門家」は，専門家を演ずる者である。
「専門家」の需要をつくっているのは，主に政治とメディアである。
「専門家」は，政治・メディアが言って欲しいことばを言うことが役割である――欲しいことばと逆のことを言うと，役から降ろされる。

2.2　政府

2.2.0　要旨
2.2.1　「専門家 / 有識者会議」悪用の報い

2.2.0　要旨

作成 : 2020-07-04

2020-04-15，厚労省クラスター対策班が「対策ゼロなら 40 万人死亡」を公表する。
そしてその翌日，政府が「全国緊急事態」を宣言する。
これは，つぎを示したことになる：

> 《「全国緊急事態」は ,「対策ゼロなら 40 万人死亡」に応えるものだ》

ここに新型コロナは，「対策ゼロなら 40 万人死亡」級の怖い感染症ということになった。

「対策ゼロなら 40 万人死亡」は虚言である（ → 4.1.7「対策ゼロなら 40 万人死亡」）。
しかし政府はこの虚言に乗ってしまう。
かくして ,《政府が国民を洗脳した》の絵図になる。

政府のこの様を「なさけない」と評するのは，政府を過信していることになる。
ここは，「同じ人間のやること」と見るところである。
そして，「馬鹿な戦争をやったもんだ」が繰り返されるしくみを，吟味していくところである。

2.2.1「専門家 / 有識者会議」悪用の報い

作成 : 2020-04-22

政治は，「専門家 / 有識者会議」を施策合理化の方法として用いている。
予定している施策を専門家 / 有識者会議の「提言」の形に表し，これを根拠として施策を打ち出す――という回りくどい方法を用いるのである。

専門家 / 有識者会議は，名目的存在である。
会議の員は，都合のよい者が選ばれる。
政府の意を受けた者が議長となって会議を進め，そして官僚が「提言」を作文する。

この方法は便利なので，政治は専門家 / 有識者会議を悪用 / 濫用してきた。
そしてこれがいま,「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」でしっぺ返しを喰らっている。

《専門家 / 有識者会議の提言を受け，それを行う》を形にしてしまった政治は，専門家 / 有識者会議がコントロールするものでなくなるとき，専門家 / 有識者が指導する政治になってしまうのである。
「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」が「医療崩壊」を理由にして「自粛」を提言すれば，政府はこれに従う。
こうして，いま「医療崩壊」が――良識崩壊・生活崩壊・経済崩壊・財政崩壊を尻目に――いちばん重いものになってしまっているわけである。

2.3　NHK/ イデオロギー

2.3.0　要旨

2.3.0　要旨

作成 : 2020-07-04

NHK ニュースは, 正義を立て, 国民をその正義の者に仕立てようとする。
正義を立てるのは，＜イデオロギー＞である。
国民をその正義の者に仕立てようとするのは，全体主義である。

NHK は，全体主義が実現されるよう報道内容を構成・編集する。
都合のよい内容に出遭うまで取材し，それが全てであるように報道する。
これは「やらせ」と同じである。
NHK ニュースには，「世の不正義の犠牲者」がほぼコンスタントに登場してくる。
これに対しては ,「そんな個人にどうして行き着けたのか？」と怪しむことになる。
これも「やらせ」のうちである。

「新型コロナ」では，NHK は「新型コロナは怖い」「新しい生活様式」の洗脳に徹する。
愚にもつかぬ内容に「新型コロナは怖い」「新しい生活様式」のラベリングをして執拗に繰り返せば，ひとは洗脳される。
NHK は，このことを本能的に知っている

NHK ニュースは，自分が立てる正義を「専門家・有識者」を登場させて言わせる。
NHK ニュースは，「専門家・有識者」を正しいものの見方・考え方をする者として登場させる。

そこで，政府の「専門家 / 有識者会議」の員が NHK ニュースないし報道特番的番組に登場するとき，彼は政府を指導する者になる。
彼のことばが正論ということになり，政府はこれに逆らえなくなる。

「新型コロナ」では，こういうことが起こってきたわけである。
NHK が世論形成を方法にして政府をコントロールできることが，示された。

全体主義を体質にしているニュースメディアを国営として権威づけるのは，本来危ないことである。
しかし逆に，個人主義・自由主義を立場とするニュースメディアを国営にするのは，これまた理屈が立たないことになる。
これは，「国営ニュースメディア」が絶対矛盾だということである。

2.4　利権

2.4.0　要旨

2.3.0　要旨

作成 : 2020-04-29

利権は，「自分たちは大事なものである――自分たちが壊れると社会が壊れる」を世間に思わせることで立ち行く。
そこで，「自分たちを壊してはならない」を機会あるごとに発信する。
彼らは当然，「自分たちを壊してはならない」を過大に宣伝することになる。
彼らは，騙す者になる。

「新型コロナ」では，医療・衛生利権が「医療崩壊」を唱えて世間を騙しているわけである。

3.　騙される者

3.1　無知
3.2　前のめり
3.3　恐怖症

3.1　無知

3.1.1　無知とは騙されること
3.1.2　無知の思考様式
3.1.3　数学教育 / 学校教育の無力

3.1.1　無知とは騙されること

作成 : 2020-06-29

騙される理由は，単純である。
それは，＜無知＞である。
実際，知っていることに関してなら，騙されないわけである。

ひとの＜生きる＞は，＜専門で生きる＞である。
ひとの生存競争は，専門的能力の競争である。
この競争は，ひとを＜自分の専門外のことは知らない＞にする。

＜自分の専門外のことは知らない＞は，平時には問題ない。
実際，「平時」とは，ひとが自分の専門性だけで生きられる時のことである。
そしてこの逆が，「非常時」である。

「新型コロナ」では，ひとは「識者 / 専門家」の言にすっかり洗脳されることになった。
ウィルスについてまったく無知であれば，こうなるほかないわけである。

非常時に試されてくるのは，教養である。
騙しに対する免疫は，教養である。
しかしいまは，学校でも「教養」が強調されることはない。
「実生活で役に立つ」が，勉強の意味になったからである。

学校教育をこんなふうに導いたのは，他ならぬ「教育学者」である。

彼らは平時に育ってきたので，「非常時」を思うことができない。

「教育学者」であれば，デューイの名前くらいは聞かされてきている。
デューイは，教育を民主主義と結びつけた。
彼は，民主主義を＜組織の員が教養を持たないと立たないシステム＞と見る者であった。
教養を欠く者は，簡単に騙される。洗脳される。
員が教養を欠く組織は，簡単に全体主義に嵌まる。

騙す者が現れるのは，非常時である。
ひとが浮き足立っているのに乗じて，騙す者が現れる。
教育は，この事態を第一に想定するのである。

デューイの思想は，もともとひじょうにラディカルである。
平時ボケすることは，このラディカルが読めなくなることである。
デューイの思想を「経験主義」とか「子ども中心主義」のことばでまとめてしまうは，この手合いである。

教養は，博識のことではない。
教養と博識の対比は，内包的 (生成的) と外延的である。
教養の力は，転移 transfer である。
生成する能力なので，これまで関接してこなかった分野にもさほど苦もなく入って行けるのである。
対応力とは，この力を謂う。

「新型コロナ」の洗脳・全体主義に対抗できるものは，教養である。
洗脳・全体主義に席巻された今日の様は，学校教育惨敗の様である。
「教育学者」にこの認識をもってもらいたいところだが, まあ無理である。

3.1.2　無知の思考様式

作成 : 2020-04-29

(1) 一つのことを聞いて，それを全部と思う

「新型コロナでこんなに苦しんだ」の記事には，「新型コロナにかかるとはこうなることなんだ」と反応する。
「一は，特殊」の考えが無いのである。

(2) リアルに考えない

「戦う病院スタッフ」の映像に対し,「これはあくまでも仕事の域でやっていること」「ひとは，できる以上のことは捨て置く」の考えを持てない。

(3) 数値を読めない

これは，「桁数」「比率」の考えが無いということである。
→ 3.2.3 数学教育 / 学校教育の無力

(4) 人・物事・ことばには表と裏があることを知らない

人間関係や組織で揉まれていない者――専業主婦をずっとやってきた者など――は，こうなる。
NHK ニュースに出てくるインタビューに答える庶民は，このタイプの者である。
世事の表と裏を見てきている者は，インタビューアーには応じない。

(5) メディアを信じる

報道が伝えてくるものは事実・真実だと思っている。
「報道は情報操作であり，その操作の信念は結局は独善である」の考えが無い。

(6) ひとの言に頼る

自分で考えるということを知らないので，他人の言に頼る。
これは，有名人の言に頼るというものになる。
報道バラエティは，このような者が視聴者になる。

3.1.3　数学教育 / 学校教育の無力

作成 : 2020-04-27

「新型コロナ」の報道に，ひとはあっさり騙される。
この＜騙される＞のうちに，＜報道が示してくる数値を読めない＞がある。

アメリカの万単位の死亡者数を示されて，明日の日本と恐怖する。
この体だと，もし世界ベースでの百万単位の死亡者数が示されたときは，世界の終わりと思ってしまうだろう。

恐怖は勝手だが，恐怖の仕方が様になっていないのである。
こうなるのは，数値の読み方を知らないためである。
端的に，「桁数」「比率」の考えが無いのである。

１万人の死者。
これはどのくらい大きい数か？

「大きい・小さい」は，「‥‥‥と比べて」が無いと言えない。
問題：
「１万人の死者」は ,「日本の総人口 1 億 2650 万」に対しどのくらい大きいか？
「1 億 2650 万人」を長さ 1 m に表したときの長さで表せ。

解答は，つぎの通り：

1 m に対する求める長さの比は，

1 万 / 1 億 2650 万 ＝ 10^4 / (1.2650 ×10^{4+4})

≒ 0.7905 × 10^{-4}

1 m＝ 103 mm の 0.7905 × 10^{-4} 倍は,

103 × (0.7905 × 10^{-4}) ＝ 0.07905 (mm)

答：約 0.08 mm

この絵図だと，死亡者の存在は，よほど目がよくないと見えない。

つぎは，平成 30 年のインフルエンザ，肺炎，交通事故での年間死者数である：

死因	死亡数
インフルエンザ	3323
肺炎	94654
交通事故	4596

ひとは，この数値に恐怖して生きてなどいない。
数値なぞ思ったこともなく，ふつうに生活している。

「新型コロナ」は，年間死亡数が 10 万になっても肺炎並である。
では，ひとはいま，「新型コロナ」を年間死亡数がどのくらいのものだと思って恐怖しているのか？

「こんな考え方はしていない」が，この問いに対する答えである。
理詰めで考えるということが無くて，ただただ思考停止して恐怖している。
ここが問題なのである。

理詰めで考えることをしないのは，「理詰めで考える」の概念が持たれていない / 身についていないからである。
特に，数値が絡むと，たちまち思考停止の殻に閉じこもってしまう。

ここに示されているのは，数学教育 / 学校教育の無力である。
＜騙されやすい状況で簡単に騙される者＞は，学校教育がこれをつくっていることになる。
＜数値が絡むと思考停止する者＞は，数学教育がこれをつくっていることになる。

実際，＜騙されやすい状況で騙されない者＞は，いまの数学教育 / 学校教育からは出て来ないものである。
いまの数学教育 / 学校教育は，「よりよい生活」がこれの考え方だからである。
数学教育だと，「*ストラティジーだ！*」「*リテラシーだ！*」となる。
「知識とは騙されないためのもの」の考えは，いまの数学教育 / 学校教育には端(はな)から無いものである。

Cf.『放射能数値の安全 / 危険度の計算作法――数学教育の責任』

練習問題

4 月 26 日報道の「アメリカの新型コロナ死者数 5 万 3934」は ,「日本の死者数 372」と比べてどのくらい大きいか？

アメリカの総人口 3 億 2906 万人，日本の総人口 1 億 2650 万人を，

ともに長さ 1 m に表したときの長さで表せ。

解答：

3 億 2906 万人に対する 5 万 3934 人 の比は,

$(5.3934 \times 10^{4}) / 3.2906 \times 10^{4+4} = 1.6390 \times 10^{-4}$

1 億 2650 万人に対する 372 人 の比は,

$(3.72 \times 10^{2}) / 1.2650 \times 10^{4+4} = 2.9407 \times 10^{-6}$

1 m= 10^{3} mm の 1.6390×10^{-4} 倍は,

$10^{3} \times (1.6390 \times 10^{-4}) = 0.1639$ (mm)

1 m の 2.9407×10^{-6} 倍は,

$103 \times (2.9407 \times 10^{-6}) = 0.0029$ (mm)

答：死亡者数を表す長さはそれぞれ約 0.164 mm と 0.003 mm で，その差は 0.161 mm。

ひとが「アメリカの死者数 5 万 3934」に対し「明日はわが身」と恐怖するのは，「比率」の考えが無いからである。

3.2　前のめり

3.2.1　前のめり型自治体首長

3.2.1　前のめり型自治体首長

作成 : 2020-07-05

自治体首長には，＜若い＞と＜年寄り＞の二タイプがある。
＜若い＞は，英雄主義の前のめり型である。
＜年寄り＞は，免責主義の追随型である。

目の前に餌を垂らされると，前のめり型はこれに飛びつく。
追随型は, 周りの者はどうするかな？と見渡し, みなが飛びつくようだったら自分も飛びつくことにする。

前のめり型は，＜先覚＞を大事とする。
追随型は，突出して怪我をしないよう,「*みながやったことだ*」のアリバイを確保することを大事とする。

「新型コロナ」で,「専門家」が「*対策しないとたいへんなことになる*」を言う。
これを言わせているものは，英雄主義である。
「*いま本当にこれがわかっており，そしてこれを言えるのは，自分だけ*」の思いがあるわけである。

英雄主義を受け取る資質は，これまた英雄主義である。
英雄主義「専門家」は英雄主義首長の臭いを嗅ぎつけ，説得にかかる。
英雄主義首長は，前のめりでいるところに「対策しないとたいへんなことになる」を示されるので，これに飛びつく。
これが，厚労省クラスター対策班員の「専門家」と北海道知事の間で起こった。

「戦争＝馬鹿な戦争＝終わらない / 終われない戦争」の端緒は，だいたいこんなものである。
火事は点火から起こる。
全体からジワジワ火が生じるわけではない。

火は，前のめり型首長に燃え移る。
そして，追随型首長がこの輪に入ってくる。

前のめり型首長が，政府に「緊急事態宣言」を迫る。
これまで「新型コロナはインフルエンザ並み」で対応してきた政府も，自信が無くなってきて，これに応じてしまう。

3.3　恐怖症

3.3.1　「新型コロナ恐怖症」
3.3.2　" 感染者 " を掘り出す
3.3.3　新型コロナ恐怖症全体主義

3.3.1　「新型コロナ恐怖症」

作成 : 2020-07-15

「新型コロナ」に対するひとの恐怖は，恐怖症 phobia である。
恐怖症は精神病であるから，理を説いても通じない。

例えば，虫嫌い。
これは，恐怖症である。
虫とはそんなふうに嫌うものではないことを説いても，虫嫌いには通じない。

新型コロナは，せいぜいインフルエンザ並みである。
感染してもふつうは無症状か軽症。
重症化するのは，高齢者や持病持ち。
重症化の内容も，インフルエンザと変わらない。

感染してもふつうは無症状か軽症だから，感染者数はかなりの数にのぼっている。
潜在していて，見えてこないだけだ。
「東京都で新たに確認された感染者が 4 日連続で 200 人超え」の「200 人」なんぞは，まったく意味のない数字である。

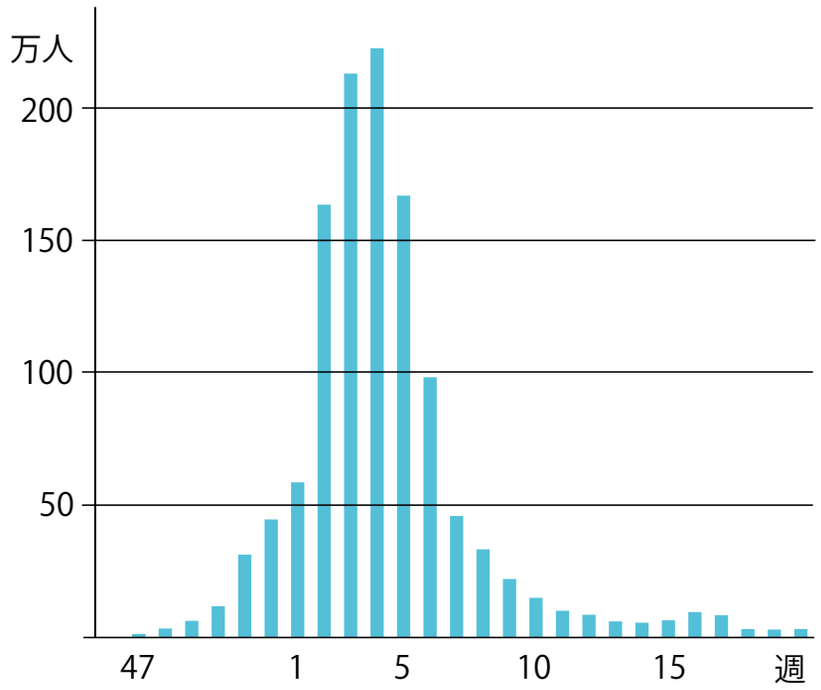
国立感染症研究所「 インフルエンザ流行レベルマップ」から，週ごとの受診患者数 (推定値) を知ることができる。「 今シーズン (2018/19 年) の動き」から数値を引き，表にしてみると：

週ごとの受診患者数と，2018 年第 36 週からの累積数
数値は推計値で，単位は＜万人＞

	週	受診	累積
2018	47　(11/19〜11/25)	1.3	9.0
	48　(11/26〜12/02)	3.4	12.4
	49　(12/03〜12/09)	6.3	18.7
	50　(12/10〜12/16)	11.8	30.5
	51　(12/17〜12/23)	31.3	61.8
	52　(12/24〜12/30)	44.6	106.4
2019	01　(12/31〜01/06)	58.6	165.0
	02　(01/07〜01/13)	163.5	328.5
	03　(01/14〜01/20)	213.0	541.5
	04　(01/21〜01/27)	222.6	764.1
	05　(01/28〜02/03)	166.9	931.0
	06　(02/04〜02/10)	98.3	1029.3
	07　(02/11〜02/17)	45.9	1075.2
	08　(02/18〜02/24)	33.3	1108.5
	09　(02/25〜03/03)	22.1	1130.6
	10　(03/04〜03/10)	15.0	1145.6
	11　(03/11〜03/17)	10.1	1155.7
	12　(03/18〜03/24)	8.6	1164.3
	13　(03/25〜03/31)	6.1	1170.4
	14　(04/01〜04/07)	5.6	1176.0
	15　(04/08〜04/14)	6.5	1182.5
	16　(04/15〜04/21)	9.6	1192.1
	17　(04/22〜04/28)	8.4	1200.5
	18　(04/29〜05/05)	3.2	1203.7
	19　(05/06〜05/12)	3.0	1206.7
	20　(05/13〜05/19)	3.2	1209.9

また，これをグラフに表すと：

週ごとの受診患者数



受診者数がピークの第 4 週は，この 1 週間で 222.6 万人が罹患者として受診している。
一方，ひとの生活は通常通りである。
この週にも，満員電車は走り，映画館はやっている。
即ち，「1 週間に 222.6 万人のインフルエンザ罹患者」は，ひとにとっ

て「どおってことない」のうちなのである。

実際，「222.6 万人」は一見すごく多いように思えるが，「国民 50 人のうちひとり」である。
そしてひとは，「インフルエンザならそんなもんだろう」と納得するのである。

しかし，恐怖症にこのような理屈は通じない。
彼らは，「インフルエンザは死なないが新型コロナは死ぬ」を返すだけである。
感染者がひとり見つかったことだけで，県をあげて大騒ぎする理由としては十分なのである。

もちろん，インフルエンザでもひとは死ぬ。
2018 月 11 月～ 2019 年 5 月の間では，3306 人が死んでいる：

	月	死亡数	累積
2018	11	13	13
	12	95	108
2019	1	1685	1793
	2	1107	2900
	3	258	3158
	4	96	3254
	5	52	3306

一方，新型コロナは，7 月 14 日の時点で死亡者が 984 人（新型コロナに感染していればすべて新型コロナで死亡として計算）。

3.3.2　" 感染者 " を掘り出す

作成 : 2020-07-11

読売新聞 , 2020-07-10

来客 みるみる減少
都内 224 人の感染
世の街 職場から「行くな」

‥‥

同区［新宿区］の累計感染者数は 8 日時点で 900 人。 この 1 か月間でほぼ倍増した。‥‥
ただ、PCR 検査や感染経路の調査への協力要請に応じているのは、歌舞伎町にある約 240 のホストクラブのうち、半分程度にとどまるという。

‥‥

この記事は，つぎのように読まれることを想定している：

「感染が拡大している」
「このままでは第 2 波がくる」
「対策強化が必要」

しかしこの記事は，つぎのように読むものである：

「" 感染者 " は，いくらでも掘り出せる」
「感染しても無症状がふつう」

→『「新型コロナ」とは』「感染しても無症状」

3.3.3 新型コロナ恐怖症全体主義

作成 : 2020-07-11

虫嫌いの者は，虫がいそうなところに置かれると，虫の影に怯え，ちょっとした物音や何かの動きにとびあがってしまう。
虫はこんなふうに恐怖するものではないので，虫恐怖は「恐怖症 phobia」の位置づけになる。
恐怖症は，「異常心理」のサブカテゴリーである。

ひとが新型コロナに対して抱く恐怖は，これである。
「新型コロナ恐怖」は，恐怖症であり，異常心理である。

虫嫌いの人を虫のおもちゃで怖がらせ，悦に入るタイプの者がいる。
「新型コロナ」での「専門家」やマスコミは，これである。

虫嫌いの人が虫のおもちゃに怖がる様は，滑稽である。
しかし，「専門家」やマスコミから発せられることばにひとが怖がるいまの様は，笑えない。
なぜなら新型コロナ恐怖症が，この国の全体主義になっているからである。
新型コロナに恐怖している様を示さない者は，非国民ということになるのである：

読売新聞 , 2020-07-10

コロナ対策不十分店 避けて
改正特措法に基づき 埼玉県が要請

埼玉県は 8 日、県内で接待を伴う飲食店を中心に新型コロナウイルス感染者が増えていることを受けて、改正新型インフルエンザ対策特別措置法に基づき、感染症対策が十分に取られていない店については県内外を問わず利用を避けるよう、県民に協力を要請した。
特措法 24 条では、都道府県の知事が感染対策を実施するために必要があると認める場合に、団体や個人に協力を要請することができる、としている。県は県内の飲食店事業者に対しても、消毒やマスクの着用などの感染症対策の徹底を求めた。
大野元裕知事は県内の感染者の特徴について「東京都内の繁華街やさいたま市などで、夜の街の接待を伴う飲食店で感染するケースが多数確認されるようになっている」と指摘。「法律に基づく措置を行うことによって、一段強いお願いとした」と説明した。

4.　妄言

4.1　コロナ感染
4.2　コロナ医療
4.3　コロナ生活

4.1　コロナ感染

4.1.1 「感染者数」
4.1.2 「死亡数」
4.1.3 「抗体検査」
4.1.4 「感染経路・クラスター」
4.1.5 「対策ゼロなら 40 万人死亡」

4.1.1 「感染者数」

作成 : 2020-06-26

「感染者数」は ,「感染」の実態を示すものではまったくない。

「感染者数」とは,「確認された感染者の数」である。
「確認された感染者の数」とは,「掘り出した感染者の数」である。
どこをどう掘り出すかで,「感染者数」は簡単に変わる。
以下に引用の記事のごとくである。

一方, ひとは「55 人」「48 人」のようなちっぽけな数を大層な数のように思わされている――洗脳されている――ので, 10 や 20 の数値の増加を示すことで十分恐怖させることができる。
冗談じゃない。
インフルエンザ並みになるのにも, 死者だけで 1000 人くらいの月が出てくれなきゃならないのである。

→『「新型コロナ」とは』「インフルエンザの月別死亡数」

「感染者数」の問題点は, ＜掘り出し＞の恣意性・作為性にもある。
東京都の場合は, 相手が「夜の街」だから嵩(かさ)にかかってやっている。
感染者が出てしまっては困るところ――例えば, 自分のところ (都庁) ――には決してやらないわけである。

NHK News Web, 2020-06-24

> **東京都 55 人感染確認**
> **夜の繁華街関係者は 20 人**

東京都は、24 日、都内で新たに 55 人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたと発表しました。1 日の感染の確認が 50 人以上となるのは、大型連休中の先月 5 日以来です。 また、先月 25 日に緊急事態宣言が解除されたあとでは、最も多くなりました。

東京都は、24 日、都内で新たに 10 代から 70 代までの男女合わせて 55 人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたと発表しました。

このうち 20 代と 30 代が合わせて 41 人と全体のおよそ 75%を占めています。55 人のうち、23 人は今のところ感染経路がわかっておらず、残りの 32 人はこれまでに感染が確認された人の濃厚接触者だということです。
また、55 人のうち、9 人は同じ職場で働く 20 代の男女だということです。この職場ではこれまでに 7 人の感染が確認されていて、感染者は合わせて 16 人となり、都は集団感染が起きたとみています。
このほか 20 人は夜の繁華街に関係する人で、このうち 12 人が集団検査で感染が確認された新宿区のホストクラブの関係者だということです。

これで都内で感染が確認された人は、合わせて 5895 人になりました。
....

NHK News Web, 2020-06-25

東京都 新たに 48 人感染確認

20 ～ 30 代が約 6 割

東京都は 25 日、都内で新たに 48 人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたと発表しました。今月に入って、2 番目に多い感染の確認です。

東京都は 25 日、都内で新たに 10 歳未満から 90 代までの男女合わせて 48 人が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたと発表しました。

このうち 20 代と 30 代が合わせて 28 人と、全体のおよそ 6 割を占めています。
48 人のうち、29 人はこれまでに感染が確認された人の濃厚接触者で、19 人は今のところ感染経路が分かっていません。
都によりますと、48 人のうち 21 人は夜の繁華街で働く人や客で、このうち 7 人は集団検査で感染が確認された新宿区のホストクラブの関係者だということです。
....
都内では 24 日、緊急事態宣言が先月 25 日に解除された後では最も多い 55 人の感染が確認されていました。
25 日の 48 人は、今月に入って 2 番目に多い感染の確認です。
これで都内で感染が確認された人は、合わせて 5943 人になりました。
....

上 昌広 :「[新型コロナ] 第 2 波対策のポイント 抗体保有と超過死亡」時事ドットコムニュース , 2020-06-26
https://www.jiji.com/jc/v4?id=202006cov0001

まず議論すべきは、PCR 検査についてだ。第 1 波では PCR 検査の陽性者数に基づき、流行状態が推定された。ところが、感染者の多くは軽症あるいは無症状で、PCR 検査を受けることなく自然に治癒した者も少なくない。多くの感染者が見落とされ、PCR 検査に基づく感染者数は過小評価された。

‥‥

注意すべきは、見逃された大部分が無症状あるいは軽症であることだ。新型コロナウイルスの致死率や重症化率は、これまでに報告されていたよりずっと低いことになる。つまり、新型コロナウイルスの致死率や重症化率は過大評価されていたということだ。

‥‥

4.1.2 「死亡数」

作成 : 2020-06-23

雨が降って地盤が崩落した。
これは降雨災害か，それとも土砂災害か。
地盤がもともとどんな状態だったかに依存する。
特段に弱いと見なされなければ，降雨災害である。
弱ければ，土砂災害である。

「新型コロナによる死亡数」は,「降雨があったから降雨災害」方式である。
よって，つぎのようになるわけである：

「新型コロナによる死者は，高齢者・持病持ちに集中。
——ふつうは，ウィルスが検出されても自覚症状無しか軽症。」

読売新聞 , 2020-06-14

「コロナ死」定義 自治体に差

‥‥ これまでに感染者の死亡を発表したのは 62 自治体。このうち 44 自治体は、死因に関係なくすべて「死者」として集計していた。 その理由として、「高齢者は基礎疾患のある人が多く、ウイルスが直接の死因になったのかどうか行政として判断するのは難しい」(東京都)、「全員の死因を精査できるとは限らない」(千葉県) ——などが挙がった。

感染者 1 人が亡くなった青森県は「医師は死因を老衰などと判断した。 感染が直接の死因ではないが、県としては陽性者の死亡を『死者』として発表している」と説明している。

....

国「速報値と捉えて」

厚労省は 12 日現在、「新型コロナウイルス感染症の死亡者」を 922 人と発表している。 都道府県のホームページ上の公表数を積み上げたといい、この死者数を WHO に報告している。

一方で同省は、新型コロナによる死者だけでなく国内のすべての死亡例を取りまとめる「人口動態統計」を毎年公表している。 同統計は医師による死亡診断書を精査して死因が分類されるため、新型コロナの死者は現在の公表数よりも少なくなるとみられる。

....

4.1.3 「抗体検査」

作成 : 2020-06-17 更新 : 2020-06-26

読売新聞 , 2020-06-17

コロナ抗体 1000 人に 1 人
東京，大阪
識者「第 2 波備え必要」

新型コロナウイルスの感染歴を示す抗体を持つ人が、感染の広がった東京や大阪で 1000 人に 1 ～ 2 人程度にとどまり、大半の人が抗体を持っていないことがわかった。 厚生労働省が 16 日、東京、大阪、宮城の 3 都府県で行った抗体検査の結果を公表した。 海外と比較しても低水準で、流行の第 2 波が来れば再び多くの人が感染する可能性がある。

抗体検査は、ウイルスに感染した際、体を守るためにできる免疫物質の抗体が血液中にあるかどうかで、過去の感染の有無がわかる。 厚労省は感染状況の実態把握のため、感染者の多い東京と大阪、少ない宮城で、計 7950 人の一般住民を対象に検査した。

その結果、抗体を持っていた人は、東京が 1971 人のうち 2 人 (0.1%)、大阪が 2970 人のうち 5 人 (0.17%)、宮城が 3009 人のうち 1 人 (0.03%) だった。 より正確な判定のため、2 種類の検査試薬でいずれも陽性の場合に「抗体あり」とした。

一方、抗体があっても、体内でどのくらい持続するかや、再度の感染を防ぐ効果があるかは分かっていない。 今後、国立感染症研究所などで詳細を調べる。

> 抗体検査は、欧米を中心に導入が進み、米ニューヨーク州は5月、住民約1万5000人のうち12.3%から抗体を検出したと発表した。 水谷哲也・東京農工大教授（ウイルス学）は「海外の都市と比べて非常に少ない値で、国や個人の感染予防策がうまくいったのではないか。ただ、大半の人が今後も感染する可能性があることも意味しており、第2波に備えた対策は必要だ」と指摘している。

ひとはこの記事を読んで，「識者」の言う「第2波への備えが必要」を受け取る。
そして，「*自粛をまだまだ続けていかねば*」となる。
「識者」とは，「自粛」を終わらせないようにする者のことである。

抗体検査で陰性（「抗体無し」）となることは，「まだ感染していない」では**ない**。

抗体検査は，血液検査である。
採取した血液で抗体濃度が或る値以上のとき，「抗体有り」になる。
逆に，抗体があってもその濃度値以下であれば，「抗体無し」になる。
したがって，過去に感染していても抗体が減れば，抗体検査で「抗体無し」になる。

抗体検査キットの宣伝文句で「新型コロナウイルスのPCR陽性者・陰性者との結果一致率が99%・98%」のようなのを見かけるが，紛らわしいフレーズである。

言っていることは，

「PCR検査で陽性ならば，抗体検査でも陽性
（抗体検査で陰性ならば，PCR検査でも陰性）」

であり，

「PCR検査で陰性ならば，抗体検査でも陰性
（抗体検査で陽性ならば，PCR検査でも陽性）」

ではない。
ましてや，つぎを導くものではない：

「抗体検査で陰性ならば，まだ感染していない」

ひとは「必要条件・十分条件」の考えが弱いので，たいてい混乱してしまう。
抗体検査の利用目的は，つぎの二つの命題のいずれかの適用である：

a.「抗体検査で陰性ならば，PCR検査でも陰性」
b.「抗体検査で陽性ならば，いまあるいは過去に感染している」

前者は，PCR検査で陰性であることを願う者が，PCR検査は敷居が高くなるので抗体検査で代用する場合である。 ——このときは，抗体検査で陰性が出てくれないと意味がない。
後者は，感染を既に済ましていることを願う者が，利用する場合である。
——このときは，抗体検査で陽性が出てくれないと意味がない。

記事の中の「識者」は，つぎの違いに対し「国や個人の感染予防策がうまくいった」と説明している：

「米ニューヨーク州は5月、住民約1万5000人のうち12.3%

から抗体を検出」
「東京が 1971 人のうち 2 人 (0.1%)、大阪が 2970 人のうち 5 人 (0.17%)、宮城が 3009 人のうち 1 人 (0.03%)」

そうではない。
日本に見る抗体検出率の低さは，新型コロナの感染は，抗体がつくられにくい（自然免疫レベルでほどんど片がつく）か，あるいはつくられた抗体が治癒後すみやかに減少することを，示している。
そして日本とアメリカの抗体検出率の違いは，体質あるいはウィルスの地域性を示している。

4.1.4 「感染経路・クラスター」

作成 : 2020-07-05

「新型コロナ対策」を言い出す者は，新型コロナを対策できると思う者である。
行うことは，「感染を封じる」である。
その方法は，「感染者を隔離する」である。
これには，「感染者を特定する」が先立つ。
そしてつぎが，特定の方法である：

> 感染者の感染経路を溯行して，感染源を特定する。
> 感染源から人の移動を追跡し，その経路での接触者を特定し，それぞれを隔離措置を以て監視下におく。

これをできると思うことが，新型コロナを対策できると思うことである。

さて，これは到底できることではない。
実際，「新型コロナ対策」はここまで，自粛指令だけである。

しかし「対策」を言ってしまったので，これをやらねばならない。
自分のやれるところを見つけて，ちまちまやる。
その作業値が，「本日新しく確認された感染者の数：○人」である。
これは，感染者の実数や，感染者数の動向を示すものではまったくない。
何の意味もない作業値である。

ところが行政は，たちの悪いことに，「本日新しく確認された感染者の数：○人」を自粛指令の根拠に用いるのである。
これは，ひとをく数十の数にびくびくし百を超えた数にすっかり恐怖す

る者＞にする。
洗脳になっているわけである。

> インフルエンザでは，年間の死亡者が３千人級，罹患者が１千万人を超える。――感染者数は１千万人以上ということ。
> 新型コロナは，７月４日時点で，死亡者数が 977，「本日新しく確認された感染者の数：○人」を累積した「感染者数」が 19597。――この「感染者数」を 1000 倍して，インフルエンザ並みとなる。
> 「数十の数にびくびくし百を超えた数にすっかり恐怖する」は，洗脳によるものである。

「本日新しく確認された感染者の数：○人」の担当者は，○が大きいほど仕事をしたふうになる。
釣果を上げたければ，穴場を狙う。
この担当者は，いったん見つけた「クラスター」を穴場にして数字をかせぐことになる。
いまなら，新宿・池袋の「夜の街」である。
無症状の「20 ～ 30 歳代の若年層」を釣り上げて，釣果にする：

読売新聞 , 2020-07-07

> **都内 新規感染 131 人**
> **知事「他県へ移動 遠慮を」**
>
> 東京都は４日、都内で新型コロナウイルスの感染者が新たに 131 人確認されたと発表した。 １日あたりの感染者が 100 人を超えるのは３日連続で、緊急事態宣言解除後の最多を更新した。 小池百合子知事は都民らに「不要不急の他県への移動は遠慮いただきたい」と呼びかけた。
>
> 新規感染者が３日連続で 100 人を超えたのは、緊急事態宣言下の ４月 23 ～ 25 日以来となる。 都などによると、131 人のうち、20 ～ 30 歳代の若年層は 98 人で全体の４分の３を占めた。 接待を伴う飲食店の従業員や客ら「夜の街」に関連する感染者は 62 人だった。 このうち繁華街での感染が拡大している新宿区が 52 人だった。 ホストクラブなどでの集団検査により判明した 25 人も含まれている。
> ....

4.1.5 「対策ゼロなら 40 万人死亡」

作成 : 2020-04-15　更新 : 2020-06-29

日本経済新聞 , 2020-04-15
https://www.nikkei.com/article
/DGXMZO58067590V10C20A4CE0000/

「対策ゼロなら 40 万人死亡」
厚労省クラスター対策班

新型コロナウイルスの感染拡大で、人と人との接触を減らすなどの対策を全く取らない場合、国内では重篤患者が約 85 万人に上り、半数が亡くなる恐れがあるとの試算を厚生労働省のクラスター（感染者の集団）対策班が 15 日、公表した。

公表した対策班の西浦博・北海道大教授（理論疫学）は人工呼吸器などによる呼吸管理や集中治療室（ICU）での治療が必要となる人を重篤患者として推計した。

試算は海外の流行を基に、1 人が平均して感染させる人数（実効再生産数）を 2.5 人と仮定した。外出自粛要請などの対策を全く取らなかった場合、重篤患者数は 15 ～ 64 歳が約 20 万 1300 人、65 歳以上の高齢者が約 65 万 2000 人で計 85 万 3300 人となった。

試算では対策をしなかった場合、重篤患者の 49% が死亡すると予測。西浦教授は死者数を出していないが、単純計算で約 41 万 8000 人が亡くなることになる。

試算した西浦教授は「新型コロナウイルスに対して何も対策をしない丸腰だった場合の数字。このウイルスは接触を大幅に制限すれば流行を止めることができる」と指摘。人と人との接触を 8 割減らせば、約 1 カ月で流行を抑え込めるとの見方を改めて強調した。

単純モデルを立てる者に，よくあるパターンである。
単純モデルを立てる者は，「こんな数値だったらすごいな」の数値を予め想っていて，モデル計算でこの数値ないしさらにすごい数値が出るとすっかり興奮してしまい，その数値を信じてしまう。

「対策ゼロ――いつも通りに」の国として，２例が挙がる。
スウェーデンとブラジルである。
この二つは，「いつも通りに」の理由も異にしている。
スウェーデンは，「いつも通りでかまわないだろう」である。
ブラジルは，「いつも通りでいくしかない」である。
(「ブラジル：新型コロナ死者２万人」の読み方)

で，二つの国は，いまどうなっているか。
6 月 27 日現在の死亡数が，つぎのようになっている：

	死亡数
スウェーデン	5280
ブラジル	55961

スウェーデン，ブラジルの総人口をそれぞれ 1004 万人，21105 万人として，100 万人あたりの死亡数をこの表にくわえると：

	死亡数	総人口	/100万人
スウェーデン	5280	1004万	526
ブラジル	55961	21105万	265

ここで，つぎの事実も加味せねばならない：

アジアの国とヨーロッパの国の間で「100 万人あたりの死亡数」を比べると，アジアの国がヨーロッパの国より桁違いに少ない

→『「新型コロナ」とは』「「新型コロナ」死亡数の国際比較」

ということで，上の表に，インドを加えてみよう：

	死亡数	総人口	/100万人
スウェーデン	5280	1004万	526
ブラジル	55961	21105万	265
インド	15685	136642万	11

さらに，日本の「対策ゼロ」の場合として，インフルエンザの死亡数をこの表に加えるとしよう (日本 (イ))。
2017 年まで遡って，12 月～ 6 月で死亡数がいちばん多いところをさがすと, 2017 年 12 月～ 2018 年 6 月の 3339 人 になる――ちなみに, 2018 年 12 月～ 2019 年 6 月は 3304 人。

→『「新型コロナ」とは』「インフルエンザの月別死亡数」

日本の総人口を 12686 万人として：

	死亡数	総人口	/100万人
スウェーデン	5280	1004万	526
ブラジル	55961	21105万	265
インド	15685	136642万	11
日本(イ)	3339	12686万	26

仕上げに，「対策ゼロなら 40 万人死亡」を 100 万人あたりの死亡数にしたものを表に加える (日本 (コ))：

	死亡数	総人口	/100万人
スウェーデン	5280	1004万	526
ブラジル	55961	21105万	265
インド	15685	136642万	11
日本(イ)	3339	12686万	26
日本(コ)	400000	12686万	3153

「対策ゼロなら 40 万人死亡」がいかに途方もないことを言っているかは，見ての通りである。
しかも，これを発表した 4 月 15 日の時点では，新型コロナがせいぜいインフルエンザ並みのものであることが，はっきりしていたのである。

4.2　コロナ医療

4.2.1 「救える命を救うために」
4.2.2 「医療崩壊」
4.2.3 「薬」
4.2.4 「ワクチン」

4.2.1 「救える命を救うために」

作成 : 2020-07-01

「救える命を救うために」
このフレーズは，主語が無く，そして途中でちょん切れている。
文を完成すると，つぎになる：

「救える命を＜われわれ＞が救うために，民は自粛せよ」

＜われわれ＞は，民の自粛を自分の仕事にとって都合がよいとする者たち・組織である。
大きくは，医療関係機関と行政機関である。
医療関係機関は，「医療崩壊」が嫌なので，自粛を求める。
行政機関は，「命を大切にしていない」の批判をされないために，「自粛を求めましたよ」の形づくりをする (アリバイづくり)。

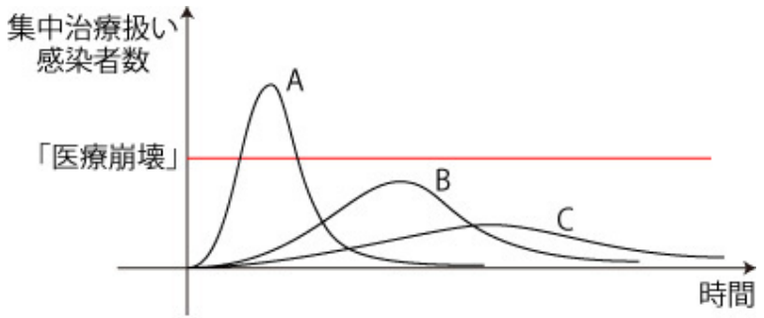
「救える命を＜われわれ＞が救うために，民は自粛せよ」
これに返すことばは，「しないよ，好きにせえ」である。

「しないよ，好きにせえ」に対し，「だったら＜われわれ＞は救わない」とはならない。
「だったら＜われわれ＞は救わない」は，「だったら＜われわれ＞は自分の仕事をしない」だからである。
「しないよ，好きにせえ」は，「しないよ，自分の仕事をしろよ」である。

4.2.2 「医療崩壊」

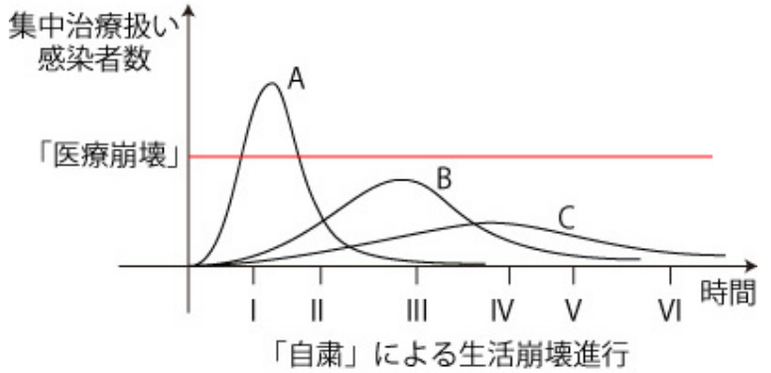
作成 : 2020-04-03

「自粛」政策は，集中治療扱いにしなければならない感染者の数を，限界ライン ——集中治療施設のベッド数に代表される——の下に抑え込もうとするものである。
医療関係者は，この限界ラインを「医療崩壊」と呼び，つぎのグラフのＡにならないようＢを実現する政策を主張し, そしてＢよりはＣを願う:



先ず，ＢやＣにはならない。
Ａでおしまいである。
しかしそれを言っては元も子もないので，いまはこのグラフに付き合うとしよう。

このグラフは，「自粛」による生活崩壊進行の目盛を合わせてプロットすべきものである：



感染死亡の危険が唱えられるばかりだが，片や生活崩壊による自殺というのもあるわけだ。
首を吊る者は，「命・健康第一」を嗤う者である。

医療関係者は長引く方がありがたいことになるが，生活崩壊を免れるには「医療崩壊」に構わず感染をさっさと済ませるのよい——となる。
マスコミが「本日の感染者○人」のナンセンスな数字に舞い上がっているのに隠されて，生活崩壊レベルは日増しに上がっている。
失業・倒産は，報道されるのが少ないだけで，進行していることになる。

高齢者や持病持ちが重症化しやすいのは構造的な理由からであるが，これと同様に，失業・倒産にも構造的になりやすいところがある。
それが，観光業である。

読売新聞 , 2020-04-01

弟子屈のホテル 自己破産申請へ

東京商工リサーチ釧路支店は 31 目、弟子屈町川湯温泉で観光ホテル「名湯の森ホテルきたふくろう」を経営する「自然塾」(小野克美社長) が事業を停止し、自己破産申請の準備に入ったと発表した。

屈斜路湖に近接するホテルを 2018 年に買収して事業を引き継いだが、新型コロナウイルスの流行で宿泊予約のキャンセルが相次ぎ、資金繰りが悪化したという。 3 月 9 日付で全従業員を解雇した。 負債総額は約 3 億 9000 万円。

4.2.3 「薬」

作成 : 2020-06-26

新型コロナウィルス感染症は，なにがどうなって治るのか。

「感染」の内容は，ウィルスが細胞に侵入し，この中にあるタンパク質製造マシンを使って自己増殖し，そして細胞の外にでる――これを繰り返す――である。
「治癒」の内容は，細胞の外にいるウィルスが破壊され，そしてウィルスに侵入された細胞が破壊され，活動するウィルスが無くなることである。

ウィルスないしウィルスに侵入された細胞を破壊するのは，特殊な細胞である。
ウィルス個々，ウィルスに侵入された細胞個々にとりついて，破壊する。
特に，この特殊細胞は，ウィルスの厖大な数に匹敵するだけの数が動員される。
体は，これらのことを実現する。

体のこの機能に対し，人が外から係われるようなことは何も無い。
ウィルスをやっつける薬なんてものは，存在しない。
医療産業は「薬」を言ってくるが，それはウィルスをやっつける薬ではない。

医療産業が言う「薬」は，では何なのか。
体の抗ウィスル反応は，行き過ぎると，自損反応になる。

これが「重症化」である。
「薬」は，行き過ぎを抑える薬ないしこのときの損傷を手当する薬を謂うのみである。

重症化するのは，体の抵抗力の弱い者ないし基礎疾患のある者である。
こうして，重症化は高齢者に集中する。
ふだん体に特に不安がない者なら，感染は無症状か軽症で済む。

感染に対し人ができることは，体がやることを邪魔しないことに尽きる。
熱が出るのは必要なのでそうなるのだから，下熱剤を用いるなんぞは自殺行為である。
咳が出るのは必要なのでそうなるのだから，鎮咳剤を用いるなんぞは自殺行為である。

現代社会の問題の一つは，ひとが体を信頼しないことである。
ひとは，医療・衛生産業利権に洗脳されて，病気・死に怯えること，薬に依存することを，正義にしてしまった。
「風邪と付き合う」「体がやることを邪魔しない」を知らない者だらけになろうとしている。

ということで，「風邪と付き合う」「体がやることを邪魔しない」の内容を，一応記しておく：

(1) 「風邪 (ヒトコロナウィルス・インフルエンザウィルス・新型コロナウィルス) と付き合う」

・ウィルスを忌避しようとして生活を不便にするのは，愚かである。
「ウィルスを頂戴する」のおおらかな気持ちが，吉。

・ウィルスは先ず鼻・喉にとりつく。
この場合違和感を感じることになるので，それとわかる。
これに対し，緑茶のうがいで応じる。
たいていは，これで抑えられる。

(2) 「体がやることを邪魔しない」

・罹ってしまった場合，ふとんをかけて寝る。
熱が出るが，これは体がウィルス破壊要員の細胞の生産で必要としていることである。
ふとんをかけるのは，体が熱を出しやすくするためである。
寝るとは安静にするということであり，これは体がウィルス退治の仕事に集中できるようにするためである。

・食欲がなくとも無理して食べる。
これは体力を保つため。

これだけである。
これだけのことを嫌がって，自粛を択び，生活を破壊してきたわけである。
――生活破壊は終わったわけではなく，倒産ドミノ・失業増加はこれからである。
「*馬鹿な戦争をやったもんだ*」

4.2.4 「ワクチン」

作成 : 2020-06-27

医療関係者・機関は，新型コロナの恐怖を煽り，ワクチンに期待をもたせる。
ひとは，これに騙される。
メディアも政治も，どこもかしこも，これに騙される。

事実は，インフルエンザ・ワクチンに見るように，風邪ワクチンは効かない。
（註：新型コロナウィルス感染症は，ヒトコロナウィルス感染症，インフルエンザウィルス感染症とあわせて，「風邪」に括られる。）

医療関係者・機関は，このことを知られないようにする。
効かないことが数値で示されると，「ウィルスはつねに変異する――ワクチンが想定している形と違うものになる」の口実を用いる。
医療関係者・機関は，風邪ワクチンが効かないことを口が裂けても言わない。
風邪ワクチンは，医療関係者・機関の一大利権だからである。

「ワクチン投与」の内容は，抗原を体の中に入れることである。
抗原とは，体の免疫反応が破壊しようとするものである。
「ワクチン」は，つぎがこれのロジックである：

　　抗原を体に入れる
→ この抗原に反応して，体は抗体を産出する
→ この抗体が，体に入ってくるウィルスに対する防御になる

風邪ワクチンが効かない理由として「ウィルスの変異」を立てるのは，屁理屈のようなものである。
つぎが，核心である：

　　ワクチンが体につくらせた抗体は，圧倒的な数で襲来するほんもののウィルスに対しては「屁のツッパリにもならない」

1000 の抗体が必要なとこに 1 の抗体があっても，「屁のツッパリにもならない」ということである。

自然災害は，人の防災対策を嘲笑うかのように圧倒する。
自然災害を被るときは，準備していてもしていなくとも同じになる。
自然は，人為とは桁が違うのである。
風邪ワクチンも，これと同じである。

風邪ワクチンが効かないことは，何も絶望することではない。
風邪に罹るしかないときは，罹るだけである。
そして体の治癒力を信頼する。

現代人は，体を信頼せず病院を信頼する。
これは，洗脳されてこうなったのである。
洗脳したのは，医療・衛生産業利権――「専門家・識者」はこれの使い走り――である。

4.3　コロナ生活

4.3.1 「大切な人の命を守るために」
4.3.2 「ステイホーム」
4.3.3 「ウィズコロナ」

4.3.1 「大切な人の命を守るために」

作成 : 2020-07-01

「大切な人の命を守るために」
このフレーズは，主語を隠し，そして途中でちょん切ったものである。
これは，わざと曖昧にしているのである。
都合よく解釈してもらうためと，突っ込まれないためである。
洗脳レトリックとは，こういうものである。

全文は，つぎの形になる：

「大切な人の命をＡが守るために，Ｂは自粛せよ」

ひとは，つぎのように受け取り，このフレーズに洗脳される：

Ａ ＝ Ｂ ＝ 己

これは間違いである。
なぜなら，己以外の命は「己が守る命」として存在するものではないからである。
命を「己が守る命」と定める――これを「傲慢」「何様と思っている」と謂う。

厚労省「平成 30 年 (2018) 人口動態統計月報年計 (概数) の概況」の死因別死亡数の表 (第６表) によると，交通事故の死亡数は 4596 人。
これは，インフルエンザの 3323 人より多く，そして新型コロナの死者数はまだ 1000 より下。

新型コロナに対し「大切な人の命を己が守るために，己は自粛せよ」となるのであれば，自動車運転に対しても「大切な人の命を己が守るために，己は自粛せよ」となるはずだが，そうはならない。
なぜか。
「大切な人の命を己が守るために, 己は自粛せよ」は, 妄言だからである。

では，ひとはなぜこの妄言を新型コロナに適用するのか。
これが洗脳というものだからである。

4.3.2 「ステイホーム」

作成 : 2020-07-01

「ステイホーム」は，妄言である。
社会の営みのうちには，「ステイホーム」をやったら忽ち社会が成り立たなくなるものがある。
「緊急事態宣言」の「ステイホーム」管制が敷かれていたときも，これらの営みは続けられていた。

「ステイホーム」は，優者の論理である。
「ステイホーム」管制で，生業 / 生活が立たなくなる者がいる。

「ステイホーム」は，差別の論理である。
生業 / 生活が立たなくなる者も，「自分の生業 / 生活が大事」に変わりはない。

4.3.3 「ウィズコロナ」

作成 : 2020-07-01

「ウィズコロナ」は，妄言である。
「ウィズコロナ」では成り立たなくなる生業・ライフスタイルがある。
「ウィズコロナ」を言うことは，「それらの生業・ライフスタイルは不要」を言うことである。

例：「「夜の街」は不要」

5.　妄動

5.0　要旨
5.1　「消毒」
5.2　「うつされない・うつさない」
5.3　学校の場合

5.0　要旨

作成 : 2020-03-24

ひとは，「科学の進歩」の類のことばをしょっちゅう聞かされる。
そしてこれに慣らされて，「人は賢い」の思いを漠然ともつ。

「新型コロナ」の報道から知らされることは，人はおそろしく賢くないということである。
少しがっかりすると同時に，大いに安堵する。
「*人間なんてたいして変わるもんじゃないぜ*」というわけである。

人間という生き物は，《知らないことを知っていることにする》ようにできている。
こうすることによって安心が得られるからである。
知らないことに対しては，「迷信」でこれに対応する。

ウィルス感染症は，このように対応されるものになる
ひとはウィルス感染症を，「迷信」を以て知っていることにする。

昔のひとは，疫(やく)病神がもたらすと了解していた。
そこで，疫病神をなだめる / 退けるをする専門家に，なだめる / 退けるをさせる。
また，専門家が教える病気対応法を実践する。
これすべて迷信である。

いまの「新型コロナ」騒動も，これと変わるところはない。

ひとは「迷信」を以て，「新型コロナ」を知っていることにする。
専門家・病院を頼み，専門家が教える「新型コロナ」対策を実践する。

予防法だと，「マスク・手洗い・雑巾拭き・消毒液散布」となる。
これすべて，迷信である。
ひとは，これらによって何がどうなるかを，何もわかっていないのである。――実際これは，調べられることではない。
ただ思考停止して，この迷信に随う。
これで安心が得られるからである。

5.1「消毒」

5.1.1 「消毒」
5.1.2 「雑巾拭・液剤散布」
5.1.3 「手洗い」

5.1.1 「消毒」

作成 : 2020-06-27

読売新聞 , 2020-06-27

次亜塩素酸水「一定濃度なら効果」
経産省検証、手指の消毒目的は推奨せず

経済産業省などは 26 日、新型コロナウイルスの影響で消毒用アルコールが不足する中、代替品として使われる例があった「次亜塩素酸水」について、一定の濃度や条件下であれば、消毒に有効とする検証結果を公表した。

検証は、国立感染症研究所などが行った。 有効塩素濃度が 0.0035％以上の場合、新型コロナウイルスの感染力が弱まることがわかった。 実生活で効果があるのは、テーブルの表面などを濃度 0.008％以上のものを使って十分にぬらし、20 秒以上おいてから、きれいな布で拭き取るような場合だという。

手指や空気中のウイルスの消毒目的の使用について、同省は効果や安全性は検証しておらず､推奨しないとしている。 また、濃度の記載がなく販売されているケースがあるため、事業者に適切な表示を求めた。

次亜塩素酸水は塩酸を電気分解するなどして作る。 殺菌用の食品添加物として認められており、自治体が新型コロナ対策として住民に配布をするなどしていた。

よくよく吟味すべし。
自治体とは，菌 (" 毒 ") とウィルスの違いも知らないで，新型コロナに

対策するところである。
ひとが自治体の言ってくることを鵜呑みにするのは，「官高民卑」に洗脳されているである。
「官高民卑」の思考回路は，官組織を実体化し，自分と同じ人間がそれの員であることを見ないというものである。

そして医療・衛生産業利権は，これらをよしとする。

5.1.2 「雑巾拭・液剤散布」

作成 : 2020-04-09

「ウィルスは，この実験環境 (「イン・ヴィトロ) において，この液体にこれだけの時間浸すと，壊れる」が知られているとする。
「専門家」とは，これを以てつぎのように唱える者である：

> 「この液体を浸した雑巾で拭き掃除せよ
> この液体を戸外で散布せよ
> ——これはウィルス駆除の方法になる」

しかし問題は，つぎのことである：

> この液体をウィルスに命中させ，そして液体の中にウィルスを必要な時間だけ留める方法は？
> 見えないものにどう命中させる？
> そして，雑巾がけ・液体散布が「液体の中にウィルスを必要な時間だけ留める」の方法になるのか？
> しかも雑巾がけ・液体散布は，全範囲の極々一部を選んでやるだけのものだ。それに何ほどの効果が？

ところで「この液体」とは？
アルコールの類をいっている。
インフルエンザやコロナウィルスは，エンベロープと呼ばれる脂質二重膜を外套にするタイプのウィルスである。
「専門家」のロジックは，「アルコールは脂質を溶かすから，アルコールで拭けばウィルスは壊れる」である。
彼らは，ウィルスを埃(ほこり)かなんぞのように思っているわけである。

スケール感覚が狂っているのである。

「雑巾拭き・液剤散布」
「何もしないより，信じて何かをする方がよい」とはならない。
それは，迷信を拡散する行為である。

5.1.3 「手洗い」

作成 : 2020-06-27

新型コロナウィルスは，感染しないことがよいのではない。
感染しないとは，感染を先延ばしにするということであり，感染にいつまでもおどおどしていなければならないということである。

肝心は，じょうずに感染することである。
最良は，体がウィルスに段々と慣れるふうに感染することである。
少量のウィルスに対しては，これを有り難く頂戴するというのがよいわけである。

赤ん坊は，なんでも口につける。
これは結果的に，外界の菌・細菌・ウィルスを取り込み，体に免疫をつけていることになる。
生まれたときの赤ん坊は，これらの免疫を持たないので，自分からつけることが必要になる。
かくして，＜なんでも口につける＞は，進化論で謂う自然選択の結果という解釈になる。

一方，現代人は，「無菌・無臭」を正義にする。
これは，洗脳されてこうなったのである。
洗脳したのは，医療・衛生産業利権である。
「無菌・無臭」にコストをかけてもらうために，洗脳したのである。

「新型コロナに感染しないために，手洗いを！」も，これである。

こうして，意味不明の商品が売れるというわけである。

ひとが手を洗うのは，本来，＜手の泥を落とす＞の類である。
菌・細菌の存在がわかって，＜手を消毒する＞が加わった。
＜手を消毒する＞は，何でもかんでもとなるものではない。
菌・細菌は，本来，これと共生するものである。
＜手を消毒する＞は，外科手術のような特殊状況で必要になるといったものである。

＜手を消毒する＞をなんでもかんでもにしたのは，医療・衛生産業利権である。
日本人は，日本が「みぎへならえ」の邑文化——個人主義が育たない文化——の国なので，簡単に洗脳されることが問題である。
実際，異常な潔癖性が，この国の正義になる。
そして医療・衛生産業利権は，これをよしとする。

読売新聞 , 2020-06-27

次亜塩素酸水「一定濃度なら効果」
経産省検証、手指の消毒目的は推奨せず

経済産業省などは 26 日、新型コロナウイルスの影響で消毒用アルコールが不足する中、代替品として使われる例があった「次亜塩素酸水」について、一定の濃度や条件下であれば、消毒に有効とする検証結果を公表した。

検証は、国立感染症研究所などが行った。 有効塩素濃度が 0.0035％以上の場合、新型コロナウイルスの感染力が弱まることがわかった。 実生活で効果があるのは、テーブルの表面などを濃度 0.008％以上のものを使って十分にぬらし、20 秒以上おいてから、きれいな布で拭き取るような場合だという。

手指や空気中のウイルスの消毒目的の使用について、同省は効果や安全性は検証しておらず､推奨しないとしている。 また、濃度の記載がなく販売されているケースがあるため、事業者に適切な表示を求めた。

次亜塩素酸水は塩酸を電気分解するなどして作る。 殺菌用の食品添加物として認められており、自治体が新型コロナ対策として住民に配布をするなどしていた。

5.2「うつされない・うつさない」

5.2.1 「マスク」
5.2.2 「飛沫シールド」
5.2.3 「ソーシャルディスタンス」
5.2.4 「換気」

5.2.1 「マスク」

作成 : 2020-04-09　更新 : 2020-06-18

(1)「**咳が出るのでマスクをする**」

咳は――痰・熱と同じく――病気の症状であり，病気そのものではない。
咳は，体の中のウィルスおよびウィルスとの攻防の残骸を外に出す生体機能である。

> 「インフルエンザウイルスは，咳やくしゃみによって飛沫と共に空気中に放出されます。 1 回の咳で約 5 万個， 1 回のくしゃみで約 10 万個といわれています。 また，水分が蒸発した飛沫は 24 時間感染性を維持するといわれています。」
> (高麗寛紀『よくわかる微生物学の基本としくみ』, 秀和システム , 2013, p.187.)

痰も，体の中のウィルスおよびウィルスとの攻防の残骸を外に出す生体機能。
そして熱は，ウィルスとの攻防の環境をつくる生体機能である。
したがって，咳・痰・熱は抑えるものではない。

> 特に，「咳・痰・熱を抑える薬」「症状を軽くする薬」の考えは，間違いである。
> 「咳・痰・熱を抑える薬」「症状を軽くする薬」を用いることは，自殺行為である。

「咳が出るのでマスクをする」は，咳で外に出したウィルスを口鼻の近辺に留める，ということである。

これは，たくさんのウィルスをつねに浴びる格好に自分をする，ということである。
「咳が出るのでマスクをする」は，自分で自分を重症化させようとする行為である。
自殺行為である。
ウィルス感染で咳が発症した者は，マスクをつけてはならない。

したがって「咳が出るのでマスクをする」の意味は，「ひとにうつさないためにマスクをする」になる。
これは，ひとのために自分を犠牲にするということである。
これは，マスクの効用 / 必要性の話ではなく，文化の話である。

(2)「症状は無いが感染しているかも知れないので，他人にうつさないためにマスクをする」

これは，「ひとに迷惑をかけない」を美徳としさらにこれを最優先する文化である。
そしてこの文化は，間違った文化である。
「美徳」は表面であって，これは「陰険」と表裏である。
実際，「症状は無いが感染しているかも知れないので，他人にうつさないためにマスクをする」者は，マスクをしていない者を見ると憎しみを抱く者である。

(3)「感染者からうつされないためにマスクをする」

これは，無駄な行為である。
流体力学の理により，吸気は顔とマスクの縁の隙間から多く入ってくる。

この隙間を封じようとするタイプのマスクは，これが強いられる特殊な職業に就く者が用いるものであって，一般生活者には息苦しくてつけていられるものではない。

そもそもウィルスは，曝露が不可避である。
大量の曝露は異常なことであるから，ふつうに曝露していればよい。
そうすれば，自然と免疫がつく。
「感染者からうつされないためにマスクをする」は，無駄であるばかりでなく，やってはならないことをやっているのである。

「専門家・識者」がマスク着用を強弁するのは，理由に二つある：

a. マスク着用を強弁する立場にいる。
——簡単に言って，「利権絡み」。

b.「マスク」の理をまともに考えたことがなく，周りが言っているのでだいじょうぶだろうと自分もマスク着用を強弁し，そして強弁してしまったので引っ込みがつかなくなっている。
——簡単に言って，「頭がわるい」。

(4)「ひとから白い目で見られないためにマスクをする」

これが，ひとがマスクをやめないいちばんの理由である。
ただひとは，このつまらない理由でマスクをしていることは自分でも情けないことなので，これを正しいことと合理化してくれる者を，無意識のうちで求めている。そして実際にこのような者が繰り返し登場していることで，安心する。
こうして，ひとは自ら進んで洗脳されるのである。

5.2.2 「飛沫シールド」

作成 : 2020-07-05

「飛沫シールド」の「飛沫」存在論は，「飛沫＝粘土弾」である：

> 飛沫は，真っ直ぐ飛ぶ。
> シールドにあたると，これに貼り付く。

実際は，こうではない。
飛沫は，気流の中にある。
その気流は，拡散しながら流れる。
壁にぶつかれば，乱流を生ずる。
水流が壁にぶつかって乱流を生ずるのと同じである。
流れの中の物は，このとき乱流とともにあり，壁に付着するのではない。

理研・豊橋技科大がスパコン「富岳」による飛散シミュレーションを発表し，新型コロナ感染予防の教えを垂れているが，これは騙しである。
飛散シミュレーションは ,「付着する・しない」の手前で終わっているからである。
「付着については，ご想像にお任せします」(「せいぜい怖がってください」) にしているわけだ。

読売新聞 , 2020-06-21

> **オフィスの飛沫対策、仕切り板は床から 140 センチ以上で直撃防ぐ――スパコン「富岳」予測**
>
> 理化学研究所や神戸大などのチームは、開発中の次世代スーパーコンピューター「富岳」を使い、オフィスや電車内で飛沫が拡散する状況などを予測した結果を公表した。新型コロナウイルス対策として、オフィスでは頭の高さまである仕切り板が必要だとした。
> ....

→ 坪倉誠「室内環境におけウィルス飛沫感染の予測とその対策」, 2020-06-03.

5.2.3 「ソーシャルディスタンス」

作成 : 2020-04-15

テレビの出演者は，互いに遠ざけ合うよう置かれる。
このマンガ的構図は，「1.8 m」ルールによるものである。

世の中は ,「1.8 m」ルールに支配されている。
ひとはこれに従う。
はじめは，ひとから白い目で見られることを憚るためである。
実際，まっとうな生活は，「1.8 m」ルールを逸脱する。 ――まっとうな生活の中では，ひとは「1.8 m」に理屈があると思う者ではない。
しかしひとは，馴らされていく。
そして，ルールに従わない者を嫌悪する者に変わっていく

「1.8 m」に理屈なんぞ無い。
あると思っている者は，言われたことをそのまま信じてしまうタイプの者である。
言われたことをそのまま信じるのは，阿呆である。（他に何と言えば？）
しかし，集団パニックの時世には，この阿呆が幅を効かすことになる。

パニックが鎮まって理性がいくぶん戻ってきたとき，ひとは，「1.8 m」ルールに易々と乗ってしまい，そしてルールに従わない者に嫌悪した自分を，恥じる。

またそのときひとは，過去に癩病者に対してひとが行った仕打ちに，すごく共感できるはずである。

《「1.8 m」などとても満足できる間隔ではない
――ずっと遠くに隔離されるべきだ！》

無知とは，ひとに途方もないことをやらせるものなのである。

「*知識ではない，考える力だ！*」を言っている教育者は，これを機会に知識の意義を少しは考えるとよい。

5.2.4「換気」

作成 : 2020-07-

5.3　学校の場合

5.3.0　要旨
5.3.1　全国一律休校
5.3.2　「授業数」の扱い——緊急事態法対応
5.3.3　短縮・分散・在宅授業
5.3.4　「消毒」
5.3.5　窓を開けてエアコンをかける

5.3.0　要旨

作成 : 2020-04-26　更新 : 2020-07-09

新型コロナ恐怖症の妄言・盲動をいちばん実践しているところ，それは他ならぬ学校である。
こうなっては，学校の意味も考え直した方がよさそうである。

昔は，学校は行かねばならぬものであった。
「いじめ」が学校の問題になってから，「学校は，べつに行かなくてもいい」のフレーズが受け入れられるようになってきた。
いまは「新型コロナ」で，「洗脳」が学校の問題になってきた——ひとはまだ認識していないが。
この問題に応ずるフレーズは，「学校は，行かない方がいい」である。

「学校は，行かない方がいい」
はったりで言っているみたいだが，まんざら虚言でもない。
わたしなら，いまの学校・教員の下の生徒には心底なりたくないからである。
「コンプライアンス」でいちばんダメになったところが学校であったが，この度の「新型コロナ」によって，学校・教員の愚劣さは決定的なものになった。

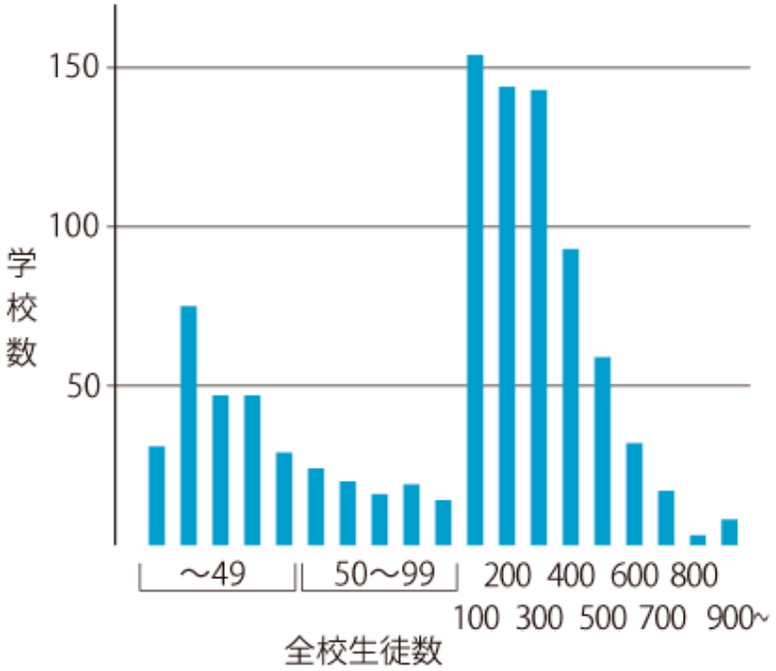
5.3.1　全国一律休校

作成 : 2020-04-26

4.7 緊急事態宣言は，4 月 16 日に全国に拡大された。
こうして，全国一律休校となる。

いまの日本は，小規模校が多い。
例えば北海道だと，公立小学校の全校生徒数がつぎの状況にある：

数値は，道教委『令和元年度 (2019 年度) 北海道学校一覧』から



全校生徒数		学校数		
～99	～9	31	229	322
	10～19	75		
	20～29	47		
	30～39	47		
	40～49	29		
	50～59	24	93	
	60～69	20		
	70～79	16		
	80～89	19		
	90～99	14		
100～199				154
200～299				144
300～399				143
400～499				93
500～599				59
600～699				32
700～799				17
800～899				3
900～999				8

このうち全校生徒数が多い学校は，札幌市とその通勤圏になる地域に集中している。

小規模校が大都市部の休校に付き合うのは，ナンセンスである。
全国一律休校は，行政の都合である。

授業数消化が地域によってバラバラになると，扱いに困るからである。
実際，小規模校の不利に大都市部の学校が付き合うかというと，そうはならないわけである。

しかし全国一律休校で事が済むかというと，そうはいかない。
これを長引かせれば，学齢システムが立ち行かなくなる。
ひとは「自粛」は財政で何とかなると高を括っているが，学齢システムは財政では何ともならない。

「自粛」に前のめりの首長にも，いまは「学齢システムの危機」がずっしり重く見えてきている時である。
しかしこれまで「新型コロナは恐い」をさんざん言ってきたことが，自縄自縛になる。
彼らは，にっちもさっちも行かない者になる。
そしてひとはこの手合いの首長とずっと付き合っていく――というわけである。

5.3.2 「授業数」の扱い――緊急事態法対応

作成 : 2020-04-26

ひとは「自粛」を正義にすることにすっかり慣れてきて，近頃は「学校は９月から再開」論まで出て来ている。

日本は，法治国家である。
国が措置することは，法に基づかせることになっている。
一般者は知らないが，「授業数」も実は法で定められている。

そこで，学校再開のときは，休校のため消化できなかった授業数を，年度の残りの期間中に消化せねばならないことになる。
そして「９月再開」ともなれば，これはもう消化不可能な数字になる。

> 教育行政はいまのところ，夏休み期間を授業消化に使うことを当て込んでいる。
> 夏休み前までに「自粛」が終わることを当て込んでいるというわけである。

消化不可能な数字になったときの措置は，一つである。
法を曲げるである。
ただし，法を曲げるにも法が要る。
「緊急事態」の理由を以て授業数が少ない年度であることを許す法である。

これには「たいへん」と「どうってことない」の両面がある。

実際，どう見るかは，ひとの世界観と立場，そしてその時々の気分次第である。
それでも，学校教育に足を突っ込んでいる者には，やはり「たいへん」である。

彼らは，自らディレンマに立ってしまっている。
これまで「生徒の安全」を言ってきているので，「自粛」延長を唱えるしかない。
延長するほどに，積み残しの授業数が増える。
そしてこの授業数を何とせねばならない者は，他ならぬ自分である。

5.3.3　短縮・分散・在宅授業

作成 : 2020-　-

5.3.4 「消毒」

作成 : 2020-07-07

YAHOO! Japan ニュース , 2020-07-05
（AERA 2020 年 7 月 6 日号から）https://news.yahoo.co.jp/articles/756c587db57d598f96f922236aef6e16b329b873

エアドッジボールにノータッチ鬼ごっこ
消毒に授業準備の時間奪われ…教育現場の疑問

‥‥

学校再開後、職員は消毒作業に追われる。階段の手すり、窓、床、ノブ、机、フック、椅子、ロッカーの棚、理科で使う虫眼鏡、体育でのボール、鉄棒、雲梯（うんてい）、一輪車、図書館の本……。

「本当にどこまで必要なんでしょうか」
都内の小学校の女性教師（30）は疑問を呈する。

自身も授業が終わると同時に、消毒スプレーを手に 1 時間かけて教室中を拭いて回る。毎回きちんと消毒したかチェックリストの記入・提出も求められる。

感染防止の分厚いマニュアルは日々更新され、項目が加わっていく。
「児童の汗でぬれたマスクは直接ごみ箱に入れずポリ袋に入れてからとか、使ったティッシュはふたつきバケツに教員が手袋をして入れろ、給食は最初に全部つぎ分け、おかわり禁止とか、細かくなる一方です」

‥‥

「本当にどこまで必要なんでしょうか」
この疑問に，「専門家」は答えられない。
「専門家」とはこの程度のものである。
わかっていないのに，テキトーなことをしゃべる。
肝心なところになると，姿を隠す。

「感染対策」を強いられる現場は，「専門家」のテキトーなことばを渡されて，「感染対策」の行動を自分たちで創作する。
創作のスタートは，ウィルスの存在をどんなふうに考えるかである。
まったくわからないから，想像するしかない。
どんなふうに想像したか。
「見えない害虫」「見えない汚れや埃」である。
こうして，「感染対策」の行動は，「見えない害虫」処分，「見えない汚れや埃」除去になる。

「裸の王様」で，詐欺師は王様の着物をつくるふりをする。
着物が見えない者は愚か者ということになるので，ひとは詐欺師のそのふりに対し，すばらしいと褒めそやす。
新型コロナの「消毒」ドタバタ劇は，これである。

こんなわけだから，「科学の時代」みたいなことを言われたら，「ちゃんちゃらおかしいぜ」となる。
よくよく吟味すべし。
科学者の営みと肝心なことの間には，とてつもない隔たりがある。
この隔たりのスケールでは，科学者なんぞは頭のわるい大学生がそのまま年を食っただけのものである。

5.3.5　窓を開けてエアコンをかける

作成 : 2020-06-15

「窓を開けてエアコンをかける」は，馬鹿を嗤う話である。
それがいまは，「専門家」に講釈を願う話になった。

「なにやってんだか」であるが，後世の者が「馬鹿な戦争」を振り返るときの資料――「人間どこまで馬鹿になれるか」の資料――として，ここに書き留めておく。

NHK News Web, 2020-06-10

教室のエアコン温度 低く設定
新型コロナと熱中症対策の両立

暑い日が続く中、学校では、新型コロナウイルスの感染防止のための教室の換気と熱中症対策とを、どう両立させるかが課題となっています。
　・・・・・・

専門家「こまめに室温を計り エアコンを設定」

熱中症に詳しい中京大学スポーツ科学部の○○○○教授は、教室のエアコンは設定温度が 28 度に固定されているケースが多いとしたうえで、「熱中症を防ぐには人間のいる場所の温度を 28 度程度に保たなければならず、決してエアコンの設定温度を 28 度にすればよいという意味ではない」と指摘しています。

そのためには、「教室で子どもたちが過ごす場所に温度計を置き、こまめに室温を計ったうえでエアコンの設定温度を下げる必要がある」と話しています。

また、「日当たりのいい教室は日が照っているときは温度が上がるので、1 日を通して室温に注意することが大切だ」と話しています。

日経新聞 , 2020-06-13

「電車の換気」窓開閉どうする？
夏控え鉄道各社困惑

暑くなる夏を控え、鉄道各社が電車内の換気に悩んでいる。新型コロナウイルスの感染防止へ換気徹底が求められる一方、窓を開けると冷房効率が下がり、熱中症リスクが高まる。
専門家は「換気と冷房を両立する工夫が必要だ」と指摘する。
　・・・・・・

おわりに

作成 : 2020-07-

註：本論考は，つぎのサイトで継続される (これの進行に応じて本書を適宜更新する)：

http://m-ac.jp/catastrophe/_war/covid19/

宮 下 英 明（みやした ひであき）

1949 年，北海道生まれ。東京教育大学理学部数学科卒業。筑波大学博士課程数学研究科単位取得満期退学。理学修士。金沢大学教育学部助教授を経て北海道教育大学教育学部教授 (数学教育専門)，2015 年退職。

「新型コロナ」: 洗脳・全体主義

洗脳

2020-07-07　初版アップロード (サーバー：m-ac.jp)

著者・サーバ運営者　宮下英明

サーバ　m-ac.jp

http://m-ac.jp/

m@m-ac.jp